

創立30周年記念会報

30年のあゆみ

1961~1991



横浜発明振興会

創立30周年記念式典写真



横浜市経済局長 斎藤 史郎氏の祝辞



発明団体連合会会長 藤増 次郎氏の祝辞



記念講演 講師 山田 正吾氏





目 次

創立30周年を祝して

横浜市長	高秀 秀信	7
発明団体連合会 会長	藤増 次郎	8
顧問 元横浜国立大学教授	荒井 文治	10

創立30周年を迎えて

会長	三橋 良夫	12
副会長	佐藤 正美	13
副会長	筒井 一郎	15

創立30周年にあたって

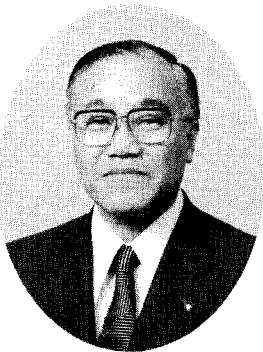
記念行事		
受付雑感	寺坂 博	21
苦言あれやこれや	中村 稚晴	22
豆腐屋35年の歩み	朝倉 松次	24

30年のあゆみ

1. はじめに 会の生い立ち	25
2. 横浜発明懇話会発会	25
3. 30年間の活動報告	27
4. おわりに	44
横浜発明振興会30年表	45
会員名簿	56

表紙写真提供 会員 三ツ元 平八氏

創立30周年を祝して



横浜市長

高秀秀信

横浜発明振興会の創立30周年にあたり心からお祝いを申し上げます。

開港以来130年の歴史を持ち、港と共に発展してきた横浜は日本と世界を結ぶ窓口として、日本の近代化、国際化に大きく貢献してきました。

そして今、人口325万人を擁するまでに成長し、経済、文化、情報などの多様な都市機能を持つ活発な都市として着実な歩みを続けています。

これは、横浜を愛する人々が一体となってたゆまぬ努力をしてきた結果だと思います。

横浜市は昭和2年、全国に先駆け発明協会横浜支部を設け、発明を奨励し産業の振興をはかってきました。以来64年、会の名称変更などの変遷がありましたが、伝統を受け継ぎ、活発な活動をしてこられた皆様のご努力は今日の横浜の大切な礎でもあり、心から敬意を表する次第です。

この横浜には、横浜発明振興会の皆さんを持つておられるような開放的で進取の気風にあふれ、何事にも果敢に取り組んでいく精神があります。このような市民性をさらに育み、そしてその歴史の中から生まれてきた国際性豊かな横浜らしい文

化や様々な都市機能を有機的に結合させ都心部と郊外部とのバランスがとれた個性あふれる地域社会を築き上げるとともに、活力に満ちた都市を築き上るとともに、活力に満ちた都市をつくり上げていきたいと思います。

特に、本年はMM21地区のパシフィコ横浜に会議センター、ホテル、統いて面積1万平方メートルの大型ホールの完成など21世紀の国際情報都市をめざした街づくりが着々進んでおります。

横浜発明振興会では、毎月第2日曜日に多勢の方が集り発明の研究を20余年継続されていると聞いております。研鑽されたアイデアを明日の市政にも反映していただくよう心からお願ひいたします。

横浜発明振興会が今後益々発展されますよう祈念し、お祝いのことばといたします。



創立30周年を祝して

発明団体連合会

会長 藤 増 次 郎

湾岸戦争に思う

横浜発明振興会が、三十周年を迎える事は、会員の皆様の発明に対する熱意が本物である証拠である事と思い、心から嬉しく存じますと共に、益々、ご発展下さい様、お祈り申し上げます。

誠に不幸な事ではありますが、湾岸地区では、戦争が勃発して仕舞いました。一日も早く終息する事を願うばかりであります。

人類の歴史は、戦争の連續でありまして、歴史から戦争を除けば、残る物は殆ど無いと言う程であります、戦争程、人類を不幸に落とし入れるものはないと言うことを、毎日の報道が、嫌と言う程、教えて呉れであります。

歴史を五千年も遡れば、ユダヤ人もアラブ人も、始祖はアブラハムであって、兄弟の間柄であるそうであります。決して喧嘩する相手では無い筈であります。然し、紀元前千年頃、ユダヤ人は、ダビデをリーダーとして、パレスチナ人を追い出し、ヘブライ王国を建て、民族の独立を宣言して以来、パレスチナ人とユダヤ人の戦いが始まったと言うことのようであります。根の深さを知ることが出来ますが、この湾岸戦争の直接の原因は、矢張

り、石油資源に端を発している事は間違ひ無い様であります。

私の研究生活も、早いもので、今年で丁度、六十周年を迎える事になりました。昭和六年に、廃棄物のリサイクルによる地球環境の保全を、私のライフワークと定め、研究生活に没入致したのであります。

以来、古紙・雑木・雑草等を原料として人造木材を製造する特許を皮切りに、土壤凝結硬化剤「フジペトン」による廃棄物の固化・無害化、これらを資源として、埋め立て、土地の造成等を実施する方法を、世に先駆けて開発してのは、今から、約三十年も前のことであります。それらに引き続き「トマスセラミックス」と名付けた強力な無機接着剤によって、焼かないタイルを、廃棄物から製造することが出来る様になりましたし、更に「トマストン」によって、天然岩石と同様の外観と強度を持たせることの出来る接着剤も開発致しました。その様に、廃棄物の資源化に就いては、相当程度まで、進んで來たのですが、二十年程前から、地球上から戦争を無くすための科学技術を開発普及する事が、我々科学者の使命であると考え始めました。

残念な事に、今回の湾岸戦争には間に合いませ

んでしたが、この戦争が終結した暁に、再び、此の様な悲劇が起きないようにする努力を、尚一層しなければならないと考えております。

世界の政治家が、この不幸な戦争を起こさぬよう努力し続けて来たにも拘らず、起きて仕舞うこの戦争は、地球上に住む全ての生物が、満足して生活出来る資源を、無限に自給自足出来るようになる迄は、無くすことが出来ないことを証明された様に思われます。即ち、私が、提唱している「創造科学技術」の開発と普及が、人類平和のために欠くことの出来ない条件であると言う事なのであります。

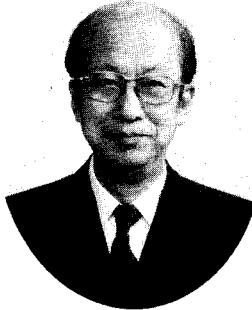
こんな意味を含めて、私は微力を省みることな

く、横浜発明振興会・日本発明振興協会・発明学会・全国発明婦人協会・アカシアの会・全国発明コンクール受賞者連盟の六団体の参加している発明団体連合会の会長を拝命しているのであります。

近い将来、地球を救う「創造科学技術集団」とも言うべき一大集団を結成して、此の地球を、戦争から守り、人類の永遠の平和と発展を現実のものとする桃源郷を夢見ているのであります。

私一人で出来る事ではありません。皆様のお力を拝借しなければならない時が来るにちがいありません。三十年はおろか、更に、更に、横浜発明振興会の御発展を祈らせていただきます。

平成三年二月



創立30周年を祝して

顧問

荒井文治

30年の歩み——私の計画——

知識と知恵は異なるものと私は考えている。手許で愛用している実用国語辞典（角川書店）によれば、前者は物事についての理解・認識をさしナウリツジであり、インフォメーションである。後者は物事の理を考え、判断し処理する心の働き、すなわちワイヤダムであり、インテリジェンスと記されている。

知識は人の話を聴き、書籍を読み、テレビを見ることでいくらでも蓄積できる。いわゆるモノシリになれる。しかしこの知識も活用することが知恵と考えている。

私は初代会長と20年前の約束を果たす目的で、1978（昭和53年）定年退官を機会に2年半休養後（この間、敗血症で死に直面したが、運強く挽回することができ、20歳くらい若返ったような極めて爽快な体調で、新春を迎えた）大いに感ずるところがあり、本会顧問として責務を果たさんと1981（昭和56年）9月の例会より現在に至る約10年間、発明の基になる自然現象（科学——物理・化学）のお話を始めた。この狙いは次元の高い発明の可能性の糧として、これらの知識を知恵として活用して頂きたいと願ったからである。主に機

械・電気の基礎物理の講義ではなく講釈を試みた。程度は旧制中学から専門学校ときには現在の新制大学、学会における最新の話題にわたり波を打った。内容は一部を紹介すると“機械要素、材料強弱論、設計法・安全係数、電気に関する基礎法則、機械と電気を結ぶ力学的関係、熱化学方程式、破裂と爆発の違い、熱から動力を抽出する方法すなわち熱機関”などを述べた。始めの頃は毎回話だけで済ませた。

1983（昭和58年）2月、横浜発明振興会ニュース102号に私の発明らしきもの——電熱蒸気無火式機関車の原理・模型的構造・設計要旨の紹介をきっかけとして、以後季節に合わせて予稿も兼ね、現在のハマ発明 NEWS198に至る約100回にわたり記述した。新しいところでは超電導現象および材料、新素材、ロボット、マイクロモータから現在はレーザに及んだ。これらの原稿は総て保管してあるので約1000枚以上になっている。

レーザの次は無公害動力源としての太陽熱・太陽電池、電気自動車、最近の電池に関する新知識などを計画している。

私の体力・気力を心得乍ら、いつもこれが最終講釈になるかもしれない、茶の湯の心の一二期一会を心がけ皆様に話しかけているのである。皆様

もその心で受けとめて頂ければ幸甚である。

わが尊敬する煙洲 鈴木 達治 横浜高等工業学校々長は、折にふれ“名教自然、想い邪なし。汝自身足ることを知り、奉仕の心に徹せよ！”自由啓発、自治自覚をよく説かれた。

私が今あるのも社会から受けた恩恵であり、皆様への講釈もこれに報いるための奉仕の一端であり、これが社会に対するフィードバック（帰還作業）と考えている。

私の敬愛する電気工学担当の竹内 強一郎教授（東京帝国大学・工・電気工学科出身）——サイクロトロンで有名な旧理研の仁科 芳雄教授と同輩である。アメリカのダウトマス大学院に学びマスター・オブ・サイエンスの学位をお持ちで94歳の長寿で一昨年の夏故人となられた）の茅ヶ崎にて10年前3000坪の松林の中のお邸に表敬訪問した折、私のリストアップしたテーマのノートをお目にかけたところ“これはロングランになるね”と申された。まさにその通りになっている。先生はお体がご不自由になられても新しいことや、ものに興味を示され、新しい本も良く読まれ、奥方を助手に実験を試みておられた。私が直接啓発された恩師の一人であり、私が北大から理博を頂いたのを真っ先に喜んで下さったのも先生であった。

煙洲先生に揮毫をお願いすると“萬巻の書を読み千里の道を行け”と大書された。在学中は授業を受けることでポテンシャルが高められ、半強制的に加速される理であるが、卒業するとたんにこれが無くなってしまう。これを戒めたのが上記の文句と私は考える。千里の道を行くことはその間に良くものやことを見よと解釈してよいであろう。百聞は一見にしかずと言われているように、この会でも参加人数など気にせず年に何回か見学を行うことはまさに千里の道を行くことになるであろう。

30周年に当り私はイギリスの詩人サミュエル・ウルマンの詩——青春——の一部を送り結言しよう。

青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の持ち方を言うのである。逞しき意志、豊かな創造力、燃ゆる情熱、積極的な行動力を以て前進しようとするのが青春である。また怯懦を退ける勇気、安易を振り捨てる冒険心を持っていなければならない。

齢を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時に老いが来る。

青春の情熱を以て、驚異に魅かれる探求心、人生への興味、歓喜および希望、美を求め勇気と強い力を以て、剛毅、壮大な理想を追求していく限り人は若い。

人は信念と共に若く、疑惑と共に老い、人は自信と共に若く、恐怖と共に老い、希望ある限り若く、失望と共に老いる。

以上の青春条件を失えば20歳であろうと老人であり、青春条件に満ちた人は80歳であろうと若人である。つねに好奇心をかきたて、みずみずしい心でいること、自分自身の心の中にまたは周囲に良きアドバイザー（助言者）を持ち、くじけたときには励ましてもらうこと、いろいろな種類の友達を持ちアクティブに体を動かすこと、これらのことができた上で、何か一筋に打ち込むことを持っているあなたは、心の柔軟剤を十分に持っている人なのである。

天より、地より、人より、美と喜悦、勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り人の若さは失われない。

＜理博＞ 元横浜国立大学 教授（物理学）
日本物理学会 終身会員（54A）

1991（平成）3年2月15日



創立30周年を迎えて

会長

三橋 良夫

昭和36年1月13日に、横浜発明振興会の前身である、横浜発明懇話会が設立されて30年になります。創立当時の会員数は約60会員でしたが、現在は300会員となり、着実に進展してまいりました。

これも横浜市当局のご指導ご援助と、役員をはじめ会員各位のご熱意のたまものであります、誠に喜ばしく関係の方々に心からお礼を申し上げます。

本会は、当初は横浜発明懇話会として設立され、事業家と町の発明家との親睦をはかり、相互にアイデアを提供交流することによって、発明品の創造と企業化への途を開くためのものであります。このため、研究会・講習会・見学会などを実施して参りました。

その後、法人会員対象の事業として「自社製品開発研究会」を発足させ、各種の研究を行ってきましたが、昭和55年中小企業事業団の要請により、この研究会を異業種交流研究会のパイロットスタディとし、翌年から横浜技術コミュニケーションプラザとして独立し、現在日本でも有数のグループに発展しております。

また、昭和43年9月から会員及び一般市民を対象として始めた「発明教室」は、当初は出席率が

低く、苦労した時もありましたが、世話人の方々のご尽力により次第に増加し、永年実施していた横浜朝日会館内の会議室では収容しきれなくなり、横浜市職能開発総合センターで実施しておりました。

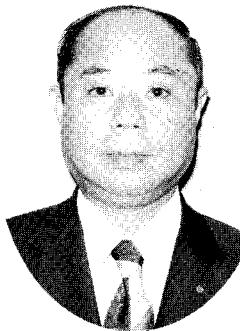
たまたま横浜市が市政100周年を記念して建設を進めていた、神奈川区のテクノウェイブ100ビルに研修室を作ることになり、この研修室を日曜発明教室に使うことが認められ、昨年10月から実施しております。

この教室は、開設以来連続して実施し、すでに270回、出席者も合計13,890人を越え、大きな成果を上げ、本会の主要事業に成長しております。

特許行政においては、昨年12月から世界初の電子出願制度がスタートし、更に来年度からは、商標法が改正されサービスマークの登録制度が導入されることになっています。

30周年を契機に、心機一転初心に返り、皆様の熱意、横浜市のご好意に報いるためにも、会の内容の充実をはかり、更に発展するため努力いたす所存であります。

今後とも一層のご指導ご支援をお願いいたします。



創立30周年を迎えて

副会長

佐藤 正美

新装のテクノウェイブ100に於いて創立三十周年祝典はさすがにその重みに感激いたしました。先人の人達が種をまき育て、それを代々受けついで地元横浜の発明事業が立派に三十周年を迎えたことは誠に感慨無量のものがあります。

伝えられるところによると、昭和2年に全国に先きがけて発明協会横浜支部を創立したとあります、それから発明懇話会そして発明振興会と実に六十年余りにわたり発明に対する横浜の心意気が感じとれます。特に亡くなられた加藤さん、小林さん、井上さんと代々会長さん、そして川村副会長さんには大変教えて戴いたものです。また一之瀬事務局長さんの長い間、一貫して献身的な功績は誠に大であります。詠さんの提案がきっかけとなって日曜発明教室が開設され全国でも代表的に成長したことも発明事業に対する横浜市ご当局の深いご理解とご支援であり、そして会長さん、一之瀬さん、会員の皆さんと一体となっての協力に頭がさがります。この実績は一般市民の発明意識の向上の輪が広がって、社会に貢献することが大きいといわなければなりません。

また歴代の会長さんは、それぞれご自身の発明を企業化されました、わたしも創業当初からこの心を経営の基本としてまいりました。思いおこ

してみると戦後二十年代の食糧不足の時代には、製糖会社の粗糖精製歩留向上をテーマに、遠心分離機に欠かせない金網の製法に、アジロタタミ機を開発してメッシュの密度を高めることに成功し、貴重な原料の歩留り向上に大きく貢献したこと、全製糖会社に採用されました。また三十年代の初めには食肉用ハムの成型用リテーナーを開発し、また一方では養鶏用ケージを開発し業界のブームに先鞭をつけました。加えて給水、給飼、集卵、除糞と一連の装置を自動化することで、一人当たり三万羽の飼育が可能となって、これらの合理化がタマゴは物価の優等生といわれるところあります。

更には自動割卵機を開発し欧米四ヶ国の特許を取得する等、戦後の食生活に微力乍ら貢献したものです。

これらの商品は横浜市職場発明工夫、また中小企業振興展で優良賞を受賞し、割卵機については神奈川県発明展において特許庁長官賞を受賞し、製菓及び食品業界に採用されるに至りました。加えて施設園芸用ビニールハウスの開発、また水産の養殖漁業用生簀も当社の九州小倉工場で生産しております。養豚用すのこ等と農業、畜産、水産と、食に関連して巾広い開発を手がけたことにな

ります。

また一方の生産の柱として建設資材の開発があります。スチールファイバー（製品名テスサ）はNKKとの共同開発でモルタルの「ヒビ」割れ防止材として開発し住宅のモルタルに、また道路、トンネル等に使用されています。最近では、東名高速道路拡幅工事の都布良野トンネルに使用されています。

またコンクリート打継板（製品名TS35）は竹中工務店との共同開発で、コンクリートの打継部分の弱点を解消したものであります。最近の工事では原子力発電所そして地元ではMM21のランドマークタワーに大量に使用されております。また住環境の良質向上に音に対するニーズをとらえ、NKKの新素材制振鋼板（鉄板と鉄板の間に特殊樹脂をはさんだ複合材で金属音を発生させない）を使用する床材を共同開発して現在体育館の床（製品名チャレンジベース）が好評をうけ、引続き一般受託用の開発を進めているところであります。この外、音のニーズとして屋根材、階段等に巾広く、防音に役立ってくるものと思います。また法面補強材（製品名KKEフレーム）は道路公

団、市町村道等と全国的に使用が見込まれています。近くでは宮ヶ瀬ダムに大量に採用されているところであります。何れも特許がらみであります。建材の開発は高度の技術と実験が伴うので、大手企業との共同開発でメリットをあげているところであります。何れも自社販売を貫いておりますが、新製品の販売は開発よりも更にむずかしいことを現実に体験している昨今であります。

よく衣、食、住といわれますが、その食と住関連に目をむけた開発の状況であります。そして大先輩の前副会長の成宮さんの特許で理想焼器の製品化に協力させて戴いたり、また毎年のテクニカルショーに欠かさず出品して、社内の提案を奨励したり、異業種グループに積極的に参加して新製品の開発を経営の基本に考えているところであります。

発明振興会創立三十年の感激を契機として更に二十一世紀に向って技術立国としてのハイテク時代に備えて発明の益々重要性を認識して成果をあげ社会に貢献することに努力を傾けたいと念願する日々であります。今後共よろしくご指導をお願い申し上げます。

H3. 1. 12



創立30周年を迎えて

副会長

筒井一郎

昭和43年の夏、東京の日曜発明学校で当時の横浜発明懇話会の理事であり、且つ、横浜日曜発明教室開催の実施委員長であった詠さんから「今度、横浜でも日曜発明教室を始めることになったから、筒井君も一度遊びに来てみないか？」と誘われ、その気になって毎回参加させて戴き、発表をしたり、話をしたり、好きなようにさせてもらひながら……今ではおこがましくも副会長の座に遇され、微力乍ら毎月開催されている日曜発明教室のお手伝いを致しております。

この永い間には、いろいろな失敗発明を致しましたが、それでも懲りず、毎月この日曜発明教室に出席させて戴いたお陰で、だんだん物の見方、考え方方が上手になってきて、各種の変形マッチや小物の日用品、文房具等を次々に考案し、気が付いたら、発明教室では70回ほど作品の発表をさせて戴き、しかもトップ賞の18回をはじめ、年間最多発表賞を5回。アイデアコンクールでは最優秀賞を1回、優秀賞を4回も受賞していた…というような思いがけない効果を挙げていました。

そして、それらの考案品の中の多数が通常実施権の契約で、多くの会社に採用されました。

特にソリットマッチ（第七回のトップ賞でした）は、定番商品となって、権利の切れてしまった今

でもどんどん注文が入っていて、出荷総数は5000万個を軽く突破しています。（スポンサーとの信頼関係で、今でもローヤリティを頂戴しております）

何だか自分の自慢話をしているようで申し訳ありませんが、これも日曜発明教室に欠かさず出席して、横浜の皆さんからいろいろと教えて戴いているお陰だと、感謝している次第です。

もちろん、私は今でも小物専門に考案を続けております。

また、30人足らずの小人数ではありますが、東京都をはじめ神奈川県、千葉県、埼玉県、遠くは群馬県在住の人達と一緒に「ゆう＆もわ・アイデアメッセ」という会を創り、文房具や日用品等の小物発明の研究をしております。

「ゆう＆もわ・アイデアメッセ」とは？… 結うYOUは（英語のあなた）。もわMOIは（仏語のわたし）。アイデアIDEAは（日英・アイデア）。メッセMESSEは（独語の見本市、広場）で、「あなたと私のアイデアの見本市」です。言い替えると「発明家とスポンサーとのアイデアの交流市場」なのです。

この会は発足わずか数年ですが、もう何人の人が素晴らしいものを考えて、実施権の契約を済

創立 30 周年 記念 行事

ませ、中には百万円以上のローヤリティを稼いだ人もおります。

ところで、一般に発明家は新しい品物を考えることには熱を入れますが、いざ完成すると、それからの商品化には苦手で、ほとんどの人達が自分の考えた物を、生みっぽなしにしているのが実情です。

かねてより、この悩みを解消し、且つ、安心して商品化できることを模索しておりましたところ、このたびギフト業界最大手の会社が商品開発のアイデアを求めていることを知りましたので、この機会に発明家を保護し、円満な契約が結ばれることを願って、甲府市の日曜発明学校の原三男氏をはじめ全国各地の日曜発明教室の有志と計って、「日本発明家協会」を設立いたしました。

そして、発明家の皆さんと上記の会社との橋渡しをすることになりましたので、どしどし応募をして下さい。

末席ではありますが、私も副会長に推薦されておりまので、側面よりの応援を致したいと思っております。

尚、アイデアの応募には「日本発明家協会の応募用紙」を使用して応募して下さい。（応募用紙と規則書は横浜発明振興会の事務局に用意しております。）

さて、私の長年の体験から得たアイデア成功の秘訣は、アイウエオのア行感覚で実行をすることです。

ア「諦めず」少しばかりの失敗で諦めるな！発明は七転び八起き。

イ「急がず」成功を急いでいいけない！焦ると失敗をする。

ウ「恨まず」真似をされても恨むな！願書に手抜きがあったのだ。

エ「遠慮せず」判らないことは、遠慮しないで人に聞け！

オ「溺れず」自分のアイデアに溺れるな！自惚れは発明の敵。

そして、「売れるアイデア成功のコツ」は……

『使う人の役に立つと同時に、実施者（スポンサー）を儲けさせるようなもの』を考えることです。

とにかく、発明を志す人は、

1 「日曜発明教室に出席し」

2 「見たり、聞いたり、試したり、して」

3 「まづヒントを摑み」

4 「自分の力に合ったもの」を…

考え方ではありませんか！

91. 2. 15

昭和36年1月13日に発会してから、平成3年1月で30年となりました。

1月13日は日曜日に当たりましたので1日繰あげ、1月12日（土）午後1時から斎藤横浜市経済局長、藤増発明団体連合会会長、岩本市議員、その他関係各団体から25名の来賓をお迎えし、会員106名出席の下に、テクノウェイブ10017F横浜市工業会連合会研修室で創立30周年記念行事を開催致しました。

1. 記念講演 13:00～14:30

〔新製品開発と販売作戦〕

講師 東芝コンサルタント 山田正吾 氏

2. 記念式典 14:40～15:40

(1) 開会のことば 副会長 佐藤 正美

(2) 会長挨拶 会長 三橋 良夫

(3) 表彰

A. 横浜市長より市民発明振興功労者に8名に感謝状・記念品贈呈

B. 会長より永年役員5名に表彰状・記念品贈呈

C. 会長より永年会員（15年以上）39名に表彰状・記念品贈呈

D. 会長より永年会員（10年～14年）33名に感謝状贈呈

(4) 来賓祝辞

横浜市経済局長 斎藤 史郎 氏

発明団体連合会 会長 藤増 次郎 氏

3. 記念パーティー 16:00～17:30

会場をテクノクラブに移し、92名の方が出席。

(1) 会長挨拶 会長 三橋 良夫 氏

(2) 来賓紹介

(3) 来賓祝辞 市会議員 岩本 正夫 氏

(4) 乾杯 横浜市工業会連合会

会長 大木 金蔵 氏

(5) 閉会のことば 副会長 筒井 一郎 氏

来賓の方々（敬称略）

横浜市議会議員

岩本 正夫

（横浜市）

横浜市経済局長

斎藤 史郎

横浜市経済局商工部長

前田 壽

横浜市経済局商工部次長

鈴木 幸生

横浜市経済局工業課課長補佐

内田 紘司

横浜市経済局工業課工業振興係

平野 弓子

（発明団体）

発明団体連合会会長

藤増 次郎

発明協会神奈川県支部専務理事

小池 知輝

川崎発明促進会会长

永田 潔

全国発明婦人協会最高顧問

松井 淑

全国発明婦人協会最高顧問

鶴田 清子

アカシヤの会会長

小酒井美智子

（各団体）

横浜市工業会連合会会長

大木 金蔵

横浜市工業会連合会副会長

岩宮 浩

横浜市工業会連合会副会長

田中 清

横浜市工業会連合会専務理事

小林 肇

横浜市工業会連合会事務局次長

山崎 武男

横浜市中小企業総連合会専務理事

森 秀夫

横浜市中小企業総連合会事務局長

饗庭 秀忠

テクノウェイブマネジメント㈱ 社長

竹内 敏男

テクノウェイブマネジメント㈱ 専務

水森 得隆

（新聞社）

日刊工業新聞社神奈川支局

石塚 達夫

（関係講師・他）

発明家

日比野 純一

特別会員

安藤 正美

情報提供協力者

浅見 知世乃

1. 横浜横浜市長より市民発明振興功労者として感謝状・記念品贈呈を受けた方。

荒井 文治 顧問 会員学術指導

井藤 誠 弁理士 会員発明指導

大貫 和保 "

松永 宣行 "

三橋 良夫 会長 会運営指導

佐藤 正美 副会長 "

筒井 一郎 副会長 "

一之瀬喜一 事務長 30年間事務局担当

2. 会長より表彰状・記念品の贈呈を受けた方。

(1) 永年役員

横浜プレシジョン㈱社長 鈴木 巍夫

㈱富田鐵工所 社長 富田仙之助

㈱北川製作所所 社長 北川 隆三

㈱セオクレーン 社長 小泉恵三郎

山田 勇

(2) 永年会員(15年~30年)

(法人会員)

㈱飯島製作所 社長 飯島 春雄

㈲石川精機製作所所 石川 猛

和泉産業㈱ 斎藤 浩一

㈱岡村製作所所 石渡 正男

サークル 外山富美子

神中ダイカスト工業㈱ 中里 圭介

㈱ニッシン製作所 大胡 誠一

㈱山口製作所所 山口寅次郎

(有)横浜合金金型鑄造所 斎藤 健治

東邦印刷㈱ 石原 順次

日本自動精機㈱ 田中 政道

㈱三晃製作所 山本 光男

日亜機械工業㈱ 藤井 義郎

ヨシイケ科研機器㈱ 安田 一男

㈱タマキ 玉置 辰郎

㈱シラド化学 白土 豊

東洋メタライト工業 社長 島津 浩
(個人会員)

成宮庄次郎 渡辺 正信 福島 康文

高木 盛家 坪井 治郎 中村 稚晴

筒井 孝輔 笹岡 義人 渡辺 洋子

綱 一弥 梅田 浩司 中島 茂美

詠 薫 矢島 克己 植岡 陽太

田中 丑松 倉本 幸夫 大城 健

山口 照雄 坂谷 昭吾 木藤 素光

石井 一市 以上39名

3. 会長より永年会員(10年~14年)として感謝状の贈呈を受けた方。

(法人会員)

大成㈱ 社長 相沢 宏司

萩原硝子工業㈱ 社長 萩原 金八

山下工業㈱ 社長 山下 栄蔵

(個人会員)

森田英五郎 驚見 元吾 越田逸之助

伊藤 宗一 影浦幸士郎 斎藤 芳雄

上条 隆義 小塙 豊 土川 敦三

加藤 儀一 畠山 勝重 青山林太郎

白田 達郎 牧平 担 小野寺 峻

高木 庄七 山内真五郎 梶 秀雄

田村 清志 山崎 隆道 鈴木 英雄

竹下 連幸 岡 徹 杉本 士郎

袋井 幸雄 北浜 清 八木橋 真

安田 善三 小島 敏彦 吉田 和正

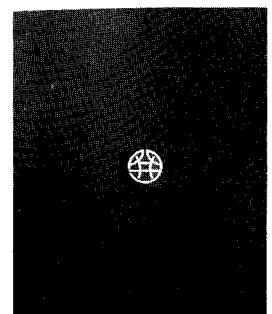
以上33名

会員記章を全会員に贈呈

創立30周年を記念して、全会員に記念品を贈呈すべく実行委員会で検討した結果、創立当初作成した会員記章を贈呈することと決定致しました。

同じメーカーで同じ品質(銀台・金張)の物を作りお配り致しました。

このデザインは横浜市のマーク ハマに発を組み合わせたものです。

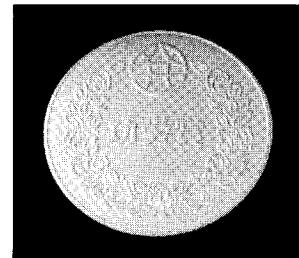


昭和38年に会員の中から募集した結果12件の応募があり、役員で審査した結果、松波秀利さん(故人)のデザインが採用されました。これを専門デザイナーに修正していただき、正式に会の記章としたものです。

横浜市長より感謝状と共に贈呈された記念品
大倉陶園製 花瓶



永年役員・永年会員(15年以上)に贈呈した
記念メタル(㈱銅巳之製)



実行委員会経過

役員の中から次の方を実行委員にお願いし、企画立案した。

実行委員

会長 三橋 良夫 理事 大畠 勝彦

副会長 佐藤 正美 " 芹沢 良子

副会長 筒井 一郎 " 小林 肇

理事 鈴木 巍夫 監事 永井 久雄

" 石原 順次 横浜市 内田 紘司

" 桑本真佐喜 " 平野 弓子

" 安田 善三

第1回実行委員会

とき 平成2年7月10日 13:00~15:00

ところ 横浜市中小企業指導センター会議室

議事

(1) 記念式典について

開催日 平成3年1月12日(土)

ところ テクノウェイプ100 17F

横浜市工業会連合会研修室

(2) 記念講演

講師候補 山田正吾・嶋本久寿弥太

(3) 記念誌

デザイン・装丁・印刷は等役員の会社に委託
ワープロを活用

30年の記録は一覧表とする。

広告は取らない。

(4) 表彰範囲

横浜市長よりの感謝状

会長表彰・感謝状贈呈範囲

次回までに候補者を選出

(5) 記念品 次回までにもすこし考えておく

(6) 招待者範囲原案どおり

出席 役員8名 横浜市2名

第2回実行委員会

とき 平成2年11月19日 13:30~16:00

ところ 横浜市工業会連合会C会議室

議事

- (1) 記念式典
第1回決定どおり実施
- (2) 記念講演講師 山田正吾 氏に決定
- (3) 表彰範囲
 - * 横浜市長よりの感謝状贈呈 8名
記念品は会より花瓶贈呈
 - * 会長よりの表彰状・記念品贈呈
役員 6名 15年以上会員 43名 決定
 - * 記念品 メタル (エッチング・銀鍍金)
 - * 会長より感謝状贈呈 10年～14年
 - * 会員記章
最上の銀台ダムシン (金張) を作り全会員に
30周年祝いとして贈呈
- (4) 招待者
範囲原案どおり決定
- (5) 修正予算案決定
- (6) この決定については全役員に通知し了承を受ける。
出席 役員 9名 横浜市 2名

祝賀会当日お骨折り戴いた方々

司会	講演会・記念式典	理事	桑本真佐喜
表彰式	"	石黒	政治
パーティー	"	八木橋	真
一般受付	"	寺坂	博
	"	大畠	勝彦
来賓受付	日曜発明教室世話人	渕上	国広
	横浜市工業会連合会	斎藤実枝子	
	アルバイト	窪田	愛子
	"	大塚	恵子
写真係	理事	芹沢	良子
	日曜発明教室世話人	吉村善四郎	
クローケ	理事	安田	善三
	日曜発明教室世話人	小野寺	峻
	"	西勝	六法

創立30周年にあたって 会員寄稿

寺坂 博

受付雑感

因縁と言うか、何というか私は、社会人になってから、慶事・弔事や催し物・旅行会などの受付や、会計の監事を任される事が多い。

そこで、受付と言うことを辞書で引いてみた。広辞苑では、(一) 申込み、訴訟、請願などを受け付けること。(二) 来訪者や参会者の用件などを、まず聞いて取り計らう場所またその人。インフォメーション (カタカナ語の字典では、(一) 情報・知識・見聞 (二) 案内・お知らせ (三) 「駅などの大きな建物、催し場などの」案内所。

戦後、疎開先の親父の田舎で村役場に就職。何しろ人に接触する毎日で、税金の賦課・徴収でソロバンの呻吟から始まり、戸籍係で字の拙さを痛感し、消防の主任・選挙管理委員会の事務などを、六年ばかりのうちに経験したが横浜生まれの横浜育ち、横浜が忘れられずに帰って来た当時は、神武景気の二三年前で不景気のどん底で、どんな仕事でもと、戦時中徵用で、航空計器の部品の仕上工として勤めていた多少の経験を生かし板金の仕事を就くと、朝鮮戦争で景気上昇、建築板金を志し脱サラ、現在に至り種々の受付をさせてもらい、慶事の受付は明るくふるまえるが、弔事の受付は、心からの悔やみを受けるため、口数も少なく、口の中でブツブツつぶやくようになる。何故受付をと言ふことを幾つかに分けてみると、A・依頼されたことを、つつがなく行うために努力する。

B・自分から、やるということはなかなか出来ない。が、やってみると多勢の人と話が出来るし、知らないことや珍しい話を聞ける。初めて会う人

とのつながりになる。一月の東京日曜発明学校の名刺交換会でのこと、筒井副会長さんが、今年のスローガンを発表された。アイウエオのア行の感覚で行こうと言うものです。

ア・アキラメズ 少しの失敗で諦めてはいけない。

イ・イソガズ 成功を急いではいけない。

ウ・ウラマズ 自分の考えをまねされても恨んではいけない。自分の出願が、まずいからまねされる。

エ・エンリョセズ 判らないことは、回りの人聞きなさい。

オ・オボレズ 自分のアイデアにおぼれるな、お金をつぎこんで、後で泣きをみる事になる。

である。私も実行したいと大いに感動した。私にも指名のマイクが回って来たので「私などにマイクが回って来るのはおかしい。横浜発振興会の発明教室で受付をやっている。皆さんも横浜へ足を運んで下さい。」と。

受付で、まずエンリョセズである。何でも聞いて得心の行くまで話す。受付で判らないことは、事務局長さんや会長さん・副会長さん、弁理士の先生まで相談に乗ってくれる。

発明や考案を志す者にとって、こんなに頼りになる会の利用法は他にない。全国に発明学校がたくさんある。地域によって多少のことなりはあるが、「受付で聞けば、得心の行くまで、話が聞ける。」そんな受付でありたい。と、いつも感じているのである。

苦言あれやこれや

1. 私が入会した頃は会員も少なかったが、日曜発明教室参集者に対する発表件数の率は今よりずっと高かった。会場も桜木町から馬車道交叉点への途中で便利だったが、基の人数が少いから細々と続いているといった感じで、参集者が15名足らずという状態が何ヶ月も続いた事がある。

しかし、それを補う為に事務局は、文献からコピーをとって参考資料として提供するなど今より熱心だった様に思う。

会員数の増加を追掛ける様に値上げした会費の使途ではっきりと目に見えて向上したのは月例発表で贈呈される賞だが、遠慮なくいって賞そのものが権威のあるものといえないし、賞に金をかける事がこの会の活動の本筋ではないと思う。おもしろし程度でよいのではないか。

コーヒーもそうだ。不味いし、好みもある。代金を会費に繰入れて会員から取立てるのは受益者が負担が原則と公言した趣旨に反する。夏場は冷い水、冬は温いお茶でも自由に飲めれば御の字だろう。廃止して会費を減額した方が会員の為だ。

評価出来るのは、年度毎に年間発表をまとめて再評価の機会を設けた事。月間のアンバランスを補正する趣旨は大変結構。

2. こういう会の存在価値従って使命は一言でいえば発明家を育てる事である。そして個人ではなく集団である事を生かす活動に力を入れるべきだと思う。

これまで度々指摘して来た様に、会員は自分のアイデアを誇示するのが目的ではない。商品化して儲ける事が最終目的なのだ。発表にたいして参集者から与えられる批評や助言は、大抵は発表者自身既に検討済みなのではないかと思う。それよりも、アイデアを育てるのは個人でも出来るが、

中 村 稚 晴

商品化して収益のある事業にするのは個人では中々難しいから、その面にこそこういった会が助言や支援・努力を注ぐべきだろ。アイデアの段階に留まるのでは社会に貢献出来ず、商品化して実際に使用されて初めて社会生活向上に役立つだから。

例えば、横浜駅に近い県政総合センターや東口のそごうには身障者や老人達の作品の常設展示場があって、ボランティアの手で販売も行っている。近傍の至便な地には幾つかのデパートがあつて賑っている。当会には市という後楯があるので、その口ききて何処かに場所をとれそうなものである。そうすればバイヤーの目に触れる機会もはるかに多く、宣伝効果も大きいだろうから有力商品に育つ例も出て来るだろう。

3. 石油ショック後の緊縮財政時に県は一番先に試作工業化補助金を廃止したが、膨張した現在の予算でも復活していない。復活させる運動をすべきだと思う。といって個人が叫んだところで大した効果は期待出来ない。

会員の声を集めるなど、力を結集しての行動こそ集団としての存在を意義あらしめるものではないか。

又、今回の電子出願制度にしてもそうだ。被害を被るのはいつも我々出願人である。面倒になるし、費用もかかる。特許庁は例によって審査期間を短縮する為といっているが、この制度が100%うまくいっても検索が速くなるだけで、機械が審査する訳ではないから審査期間短縮にはあまり役立たない。審査を早めるには審査官の能力を向上させるか（検索時間の短縮分だけ向上するが大した事はない）審査官を増やす他ないのである。

だが増員は定数枠を拡げるのに国会の審議を受けねばならない。特許庁はこの努力を怠った。そ

してすべてを出願人に押しつけたのである。例えば、電子化の為に必要なコンピューター類、そしてそれ等を収納する為の建物、こういった固定資産は本来予算案を立てて国会の承認を得て国庫から、即ち広く国民の税金から費用を捻出すべき性質のものだ（例えば、農水省の庁舎は農民・漁民から金を集めて建てたのではない）。だがこれが大変なので、あっさりやめて、まとまった力になりにくい出願人に転嫁したのである。先ず会計を独立採算制として国会審議を経ない体制にし（この為出願人や権利者の納付する費用は一切専用の証紙による様にした）、次いで矢つぎ早に、2年間に5割づつ2度に亘って諸料金を値上したものである。

だから我々発明家仲間は、この様に不当な処理に対して値下運動を展開すべきなのだ。

考えても見よ、緊急措置で集めた金で固定資産の手当をすませた以上、これからは毎年値上分の中のかなりの部分が余って行く筈ではないか。それに本来固定資産はその実際の耐用年数に相当する期間に亘る納税者全体で負担すべきもの、それを短期間に、しかも出願人だけから取立てるのは不合理なのだ。

そうでなくとも特許庁に入る金は膨大なものになるのだ。年間50万～70万という出願で、審査請求を含めて実用新案で4万3千円、特許で最低7万2千円かかるから、平均1件5万円としても（意匠や商標には審査請求制がないが、一方で多项制もあり、また審判、再審もあるから）250億～350億の金が入る。更に大きいのが登録料。権利を放棄しない限り実用新案で10年、特許で15年登録料を納める。その額は実新で14万1千900円登録料を納める。特許で1項としても75万900円になる。出願の何割が権利になるか分からぬが、ある審査官が「中村さんは権利になる率がいいですね」というので他の人はどの位なのか聞くと、拡大鏡では1割位という事だったから、勘定よく年間10万件が権利になるとして（公告公報の冊数を数えれば、1冊100件だから、年月のずれはあるがもう少し正確な数がつかめるが）、

そして特許、実用新案が半々で、出願数等が変わるものとすれば毎年ざっと450億が入る、余って仕方ない位なのだ。

だから今後は値下が当然なのである。

大体46年の工業所有権法大改正以来、特許庁は2年から年毎に料金を値上、その都度審査期間の短縮を約して来たが、一度も短縮せず、値上だけ実施した。大改正前から見ると料金はざっと40倍になっている。物価上昇と比べると桁違いの率である。

こういった不合理は黙っていては勿論、個人が騒いでも効き目がない。やはり集団の力でなくては駄目だ。当会或は連合会等団体でこそ運動を開すべきである。

なお、長年特許庁にあった知人達の話では、特許庁内部でも電子化反対の意見が強かったそうである。うまく行く訳がないと。だが、次官になる為には長官は存在中に花火を上げないといけないという訳で無理をするのだという。そのとばかりが出願に来た訳で、これでは正に“一将功成て万骨枯る”で、とんでもない話である。

5. もう一言。

アイデア発表や、イベントに於ける挨拶、講演等をポケットに手を突込んだまま行う輩がある。これは聴衆を見下した態度で感じが悪い。マナーにも反する。改めるべきだ。

また、イベントの際、市の役付が来て挨拶をしますと早々に引上げるのも会を軽視した失礼な話である。どうせ部下が用意した作文を読み上げるだけで時間つぶしから来てくれなくて結構だ。

特許庁に限らず、役所には自浄作用が働くかない。我慢したり、諦めたりしていては良くならない。欠陥を指摘して追求するのが国民の為の行政を行わせる道である。主権者は我々国民であるのだ我々自身が自覚すべきである。

30年の歩み

創立30周年にあたって 会員寄稿

豆腐屋35年の歩み

私、オギャート母の腹から生れて、今日頭の髪がうすくなった、酒好きな豆腐屋の親じです。のむもよし、のまざるもよし、おのれの心一つにきめよ。

私5人兄弟の次男として生れ終戦の年に小学校に、入学そして2年になった秋には、池子の弾薬庫が爆発し、とてもこわい思いをしたことを、今も記憶に残っています。4年になった時に、米国の援助で学校給食に粉ミルクが支給され、私はそれを飲まなかったために1日廊下に立たされて、親が先生に謝りに来て家にかえったことなども有りました。

中学に入学して2年になった時に逗子中が出来（それまでは逗子小に間借りでした）リヤカーで机やいすを皆と運び運動場にするため石のローラを何日も皆で引き畠を運動場にしました。勉強もしなかったが、どうやら中学を卒業出来、豆腐屋へ小僧に行き、朝は1時半頃から夜は10時頃まで、3年間しんぼうして、18才の時に自分の店が出来た時は、親の力だとうれしく思っています。

さて店は出来たが、豆腐や油揚が出来ません。若い私には、わからないことが多すぎました。小僧に行ってた店の水と私の店の水の水質が違っていたのです、豆腐にはよいのですが油揚にはダメでした。油揚には上質の水ではなく、中～中の下ぐらいの水質でないとダメといわれ、その水をさがすのに時間がかかりました。私の家では、昔水屋と言う商をしていました。皆様は、水屋と言つてもわからないと思います。逗子では当時水道が

朝 倉 松 次

なく、井戸にたよっていました。海の近くなので、井戸を掘っても塩水が出て来ます。それで私の親は、一般の家や旅館に売っていたのです。豆腐をつくって売ると言う事は、非常におくが深いことだと思うようになりました。今でも毎日が勉強です。たかが豆腐、されど豆腐と昔のえらい人が言っていました。私も17～18年前ごろから、豆腐のことを考えていろいろの品物をつくり、カレー豆腐や形の変った豆腐などもつくり業界にアピールしたのですが、昔の職人が多いためなかなか発展しません。10年ぐらい前からオカラが有料になって来たので、なにかオカラの有効利用がないか考えていた時に、えんあって東京の先生に会い、オカラの研究で御協力をいただき、オカラ入りのタイルを作ることが出来非常にうれしかったです。数多くの失敗もありましたが、現在では楽しい思い出です。約6年の年月がすぎました、そして去年の2月にはテレビ会社から電話があり、テレビで放映してもらいうれしく思っております。(TBS)

これからも社会のため、業界のために、役たつような研究をしたいと思います。

私の好きな言葉です。

心には、心まだわす心あり、

心に心、心を、しめよ

30周年、おめでとうございます。

これからも会員のため、会長や事務局の方のおほねおりを期待します。

1. はじめに 会の生い立ち

横浜市は関東大震災により市内のほとんどが壊滅状態になり、貿易商の多くが神戸に移転したことにより開港以来栄えてきた貿易港である横浜港は重大な転機を迎えた。

横浜市は、横浜で製造した製品を、横浜港から輸出する方針のもとに産業振興に力を注いだ。

臨海工業地帯の造成をはじめ、発明振興にも意を用い、昭和2年9月全国で7番目の発明協会横浜支部を設立、事務局を商工課内におき、支部長には有吉忠一市長が就任した。

以来、大西一郎市長、青木周三市長、半井清市長と受け継がれてきた。

昭和18年に至ってようやく神奈川県に発明振興の気運が高まり（近藤県知事）9月に支部を移管し、横浜支部は発明協会神奈川県支部横浜市部会となつた。

横浜市部会となつても、専従者をおき、多額な補助金を受けて、活発な活動を続け特に昭和23年に開催された日本貿易博覧会には、野毛山に設けられた第1、第2科学館と天文館の運営をまかされ、日本一の反射望遠鏡の設置、当時研究段階であったテレビジョンの設置などで好評を博した。

昭和25年進駐軍命令により、外郭団体への補助金交付を停止させられた。

この為専従職員は横浜市職員に切り替わり、事業は市の直接事業となつた。

引き継がれた当時の事業

発明考案の試作工業化助成金交付

発明考案展覧会共催（神奈川県）

*青少年創意工夫展共催（神奈川県）

*職場における創意工夫功労者顕彰

*発明相談 機械・化学 週2日

2. 横浜発明懇話会発会

昭和34年、半井清氏が公選で市長に就任され、横浜市部会の復活を命じられたが、発明協会本部の了解が得られず、独自の会を設立することとなった。

かつて支部会の有力メンバーであった数人のかたにご出席戴き発会について協議した。その結果この方々を発起人として昭和34年12月～昭和35年12月の間6回に亘って会合を開き、規約案審議・会員募集方法・会の性格・名称・創立総会等について審議を重ねた。

会の性格

半井市長の意向は、市長が気軽に出席できる会であること。

会の設立担当は、経済局商工課指導係で、この係は中小企業の診断指導と市部会から引き継いだ発明奨励事業を行っていた。

中小企業の多くは自社製品を開発し、独立企業になることを念願としているが人材、アイデアが無い。一方町の発明家はアイデアはあるが、資金生産手段を持たない。こういう状況が多く見掛けられていたので、この両者を結ぶ交流の場をつくることを会の性格とした。

会の名称

上記の性格を反映した名称を模索しているときまたま受け継いだ印箱のなかに「横浜発明懇話会」のゴム印と、会長印が出てきた。

この会は昭和21年5月16日準備会、6月15日幹事会を開催し発足したが、会長に選出した半井清氏がページとなつたので、昭和23年7月加藤清右衛門氏を会長に選出し再スタートした。その後戦後の混乱期だったので、活動は頓座していた。

発起人の多くはこの当時の役員をしていたので

「横浜発明懇話会」を再度盛立てると、会の性格にもぴったりなので、この名称に決定した。昭和36年1月創立以来昭和56年3月までの20年間この名称を略し「ハツコン」として親しまれた。

会員募集

昭和35年9月趣意書・規約案を市内の発明者、事業者に発送し入会申し込み受け付けを開始した。

日刊工業新聞社の協力により東京版に記事が乗ったので市外からの申し込みもあって、11月末で法人37社、個人43名合計80名の申し込みが集まった。

創立総会

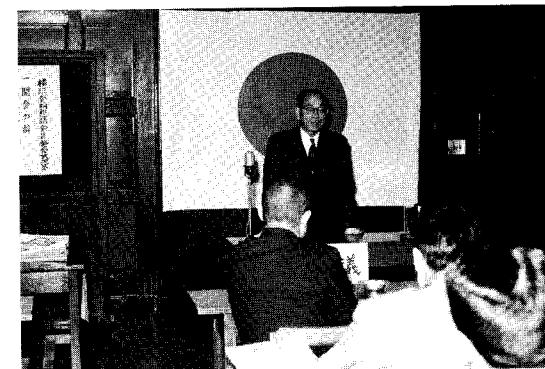
昭和36年1月13日午後1時30分より、横浜市開港記念会館において、半井横浜市長、船引横浜市助役、阿久沢日刊工業新聞神奈川支社長、朝倉神奈川大学工学部長諸氏の臨席を得、会員60名出席のもとに創立総会を開催した。

記念講演

「模倣と創造」工学院大学教授 中本 守氏

祝賀パーティー

同所で盛大に挙行した。



3. 30年間の活動報告

(1) 発明奨励普及事業 (日曜発明教室・神奈川県発明考案展・横浜市小中学生創意くふう展)

ア. 毎月第2日曜日午後1時から

日曜発明教室を開設



たいがいの発明者は発明品ができると、友人知人に見せ意見を求める。すると心のなかではつまらない物を考えたなあと思っても人間関係を損ねたくないで裏め、商品化したら是非買いたいというのが常である。

発明者はその気になって、お金を注ぎ込み商品化したがさっぱり売れず財産を失った。というケースがしばしば有った。

発明者とまったく利害のない第三者の意見を聞くと言う事は難しい。そこでこの機会を与えるというのが日曜発明教室である。

昭和42年詠理事さんの提案があり、東京で10年前から実施していた日曜発明学校の実施状況を研究し、昭和43年度の総会で会の事業として決定した。

具体的実施態勢を整えるのに手間取り第一回を開始したのは、昭和43年9月8日からで、作品の発表と発明相談を主体としてきたが、出席者・作品発表者を多くしたいという念願で、第

14回から研究会・講演会を合わせ開催するようにした。

開催実績

(平成3年3月現在)

実施回数	271回
出席人数	13,897人
作品発表件数	1,414件
発明相談件数	667件
研究会・講習会	205回

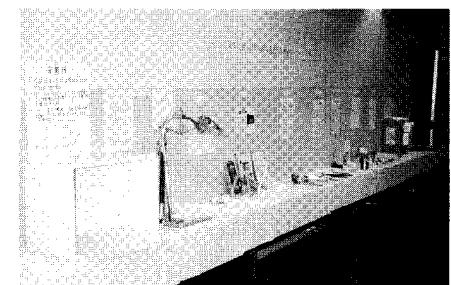
日曜発明教室発表作品展示コンクール

毎月投票によりトップになった発表作品に優秀賞(楯)を贈呈しているが、発表内容にバラツキが有り入賞を逸した方にも一度入賞のチャンスを与えるため、昭和49年から前年度に発表した作品をもう一度持ち寄り展示し、出席者の投票により最優秀賞・優秀賞・優良賞を決定するようにした。

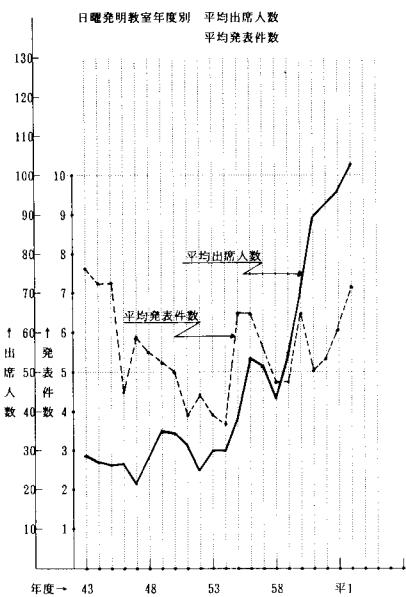
昭和49、50、51年は5月に開催したが、昭和52年度から科学技術週間協賛事業として毎年4月に開催することとして今日に至っている。

(平成3年4月現在)

実施回数	18回
出品数	360点
参加人数	272名



出席・発表奨励賞の制定



昭和54年までは月平均30名前後の出席者で、一向に多くならず、また発表件数も低下しつつだったので、昭和55年度から出席・発表奨励賞を設けた。

実績

年度	皆勤賞	精勤賞	発表賞
55	5	7	2
56	6	17	4
57	5	10	2
58	6	16	1
59	9	15	2
60	11	20	2
61	17	31	0
62	12	39	1
63	23	30	3
平1	23	38	3
2	28	43	5

会場

毎月決まって第2日曜日に貸してくれる会場を探すのに苦心した。

- 第1回・第2回 横浜市開港記念会館
- 第3回～第91回 神奈川県中小企業会館
- 第92回～第256回 横浜市中小企業指導センター会議室
- 第257回 横浜市技能文化会館
- 第258回～第259回 横浜市中小企業指導センター会議室
- 第260回～第265回 横浜市職能開発総合センター会議室
- 第266回以降 テクノウェイブ100
横浜市工業会連合会
研修室

昭和51年2月横浜市中小企業指導センターが横浜朝日会館6階に移転し、立派な会議室ができるので苦労なく毎月開催できるようになった。

いろいろな施策が効果を現し始めたのか、昭和61年度から出席者が100名を越える月が出るようになり、定員過剰が心配となりまた、他に会場を探さなければならなくなった。

昭和63年11月に日曜発明教室開始20周年記念行事に出席戴いた工業課長さんも実情を見て心配された。

この事が発端となり、平成2年10月よりテクノウェイブ17Fに完成した横浜市工業会連合会研修室で開催できるようになり、事務局も移転した。

会の名称

日曜発明教室開始に当たって、東京は学校という名称を使っていたので、遠慮して日曜発明教室として今日まで通しているが、発明学会発行の発明ライフには横浜日曜発明学校となっている。

基礎 電機・機械の基礎物理学講座

発明考案の質を高めるために、顧問であり理学

博士の荒井文治氏におねがいし、昭和56年9月第157回日曜発明教室から基礎 電機・機械の物理学講座を連続65回開講していただきました。

お陰で出席者は平均50名を越えるようになり、作品の発表内容も向上した。

発明相談

横浜で日曜発明教室を開始することが新聞等で報道されたので、弁理士の先生から無報酬で協力のお申し出があった。

開始第1回から発表と平行して発明相談を実施している。

今まで12名の方々にご協力いただき667件(平成3年3月)の発明相談を行った。

世話人会

日曜発明教室の実施は、本会役員および会員の中で協力を申し出たもので世話人会を組織し、運営に当たってきた。

司会・受付・進行・記録等を分担、終了後の片付け等良くやって戴いております。

終了後必ず世話人会を開き、当日の反省次回の企画などを、話し合い、この中から出席・発表奨励賞、アイデアコンクール、初心者研修(このため12時30分から開始するようになった)など多くのアイデアが生まれ実行に移してきた。

昭和61年度から出席者が増大し収容し切れなくなったとき、机を縦に並べ6人掛けにするアイデアが生まれ、これは大ヒットであった。

この会は、自分達のためのもので、自分達で良くしていこうとの意識が強く、これが盛況に導いたものと思う。

100回記念行事

昭和51年12月12日で100回開催となったのでこれを記念して次の行事を行った。

★記念講演

「アマ発明プロ発明」

講師 発明学会会長 豊沢 豊雄 氏

★感謝状・記念品贈呈

詠 薫 筒井 一郎
山崎 一男 一之瀬 喜一

★表賞状・記念品贈呈

石井 一市

★記念パーティー

豊沢先生を囲み 会場 寿宴 31名

20周年記念行事

昭和63年9月で日曜発明教室開始20周年となったのでこれを記念して次の行事を行った。

★記念講演

「国際派の多項制になった」

講師 弁理士 山田 康正 氏



★感謝状・記念品贈呈

* 創設功労者	詠 薫	小林 甲蔵
* 実施功労者	成宮庄次郎	筒井 一郎
* 運営功労者	三橋 良夫	山崎 一男
* 世話人功労者	白根 春夫	木藤 素光
	小野寺 峻	石渡 勝美
	安田 善三	八木橋 真
	桑本真佐喜	寺坂 博

(2) 発明技術向上事業

*出席功労者 岡本 義雄 佐藤 秋雄

(3年連続皆勤者) 永井 久男 武沢 潔

内海 宏 藤田 左刀

*特別功労者 荒井 文治 井藤 誠

大畠 勝彦

*特別功績者 一之瀬喜一

★記念パーティー 寿宴 出席 66名

★20年のあゆみ発行 400部

イ. 神奈川県発明考案展覧会に共催として参加

第12回(昭和36年3月)より後援として参加、
第14回より主催者の一員となる。会長が審査員
となり、会長賞を贈呈している。

★会員出品入賞実績

参加回数	第12回～第42回(31回)
出品者数	403名
出品点数	567点
入賞	79
賞 奨励賞	58

ウ. 横浜市小中学生創意くふう展後援

第3回横浜市小中学生創意くふう展(昭和45年9月26日～30日有隣堂)後援、入賞者80名に記念品贈呈。第4回よりは、会長が審査に参加し、会長賞を授与。平成2年度第23回まで毎回後援、今後も継続する予定である。

(講演会・講習会・研究会・見学会)

ア. 会員の発明技術を向上させるために講演会、講習会、研究会等を毎年本会独自または他の団体と共に実施してきた。

創立より昭和55年度(20周年)までの実績

	回数	参加人数
講演会	36	1,888
講習会	11	406
研究会	38	1,287
映画による研究会	9	169

昭和56年度～平成2年度までの実績

	回数	参加人数
講演会	14	1,142
講習会	37	2,943
研究会	87	5,795

★褒章受賞者講演会

特許制度の基礎を築いた、専売特許条例が発布されたのが明治18年4月18日でした。

70周年にあたる昭和30年に「発明の日」が制定された。

通産省・科学技術庁・特許庁が中心となって、科学技術週間が設けられ、発明思想の高揚をかかる運動が全国的に展開されている。

昭和52年褒章くらぶから講師を派遣していただけの事となり、以来4月の日曜発明教室を科学技術週間協賛事業として、褒章受賞者講演会を毎年行なっている。

(今までに14回実施)



イ. 工場見学会

発明家の知識を広くするために見学会は大きな役割を果たしているが、発明家の集団ということではじめは見学させてくれる工場が少なかった。

そこで公設或いは大手の研究所、見学コースの出来ている大企業を見学した。

しかし、見学者にとっては、もっと近くで見たかった、もっと詳しく知りたい気持ちが強く、不満が多くだったので、その後は横浜市が指導している優秀な、中小企業を中心にするよう切り換えた。



実績

区分	回数	参加者	備考
研究所	6	268	観光バス利用
大企業	3	130	"
中堅企業	12	142	
発明催事	2	80	観光バス利用

(3) 発明実施化推進事業（発明奨励金・助成金交付・自社製品開発研究グループ）

★発明奨励金の交付

昭和37年、半井横浜市長より、破損しにくい公園用の照明灯を開発するよう提案があった。

会員中より募集したところ多数の応募があった。これを横浜市助成金交付要綱に基づき審査をし、石黒安之助、佐久間雄幸の両氏に助成金が交付された。

本会からも石黒安之助氏に4万円、佐久間雄幸氏に3万円を贈った。

昭和37年7月9日午後7時神奈川区西寺尾公園にて市長立会の元に点灯試験を行い成功した。

★テーマ発明の試作研究助成

昭和55年度から横浜市よりテーマ発明の試作研究費補助金25万円(1件5万円×5)が本会に交付されるようになり、昭和59年度までの5年間続いた。

* 昭和55年度

テーマ

省資源・省エネルギー・代替エネルギー利用発明考案

・バーナー燃焼方式ボイラの加熱温度低下防止器 田村清志 5万円

・風呂釜の逆循環防止弁

白根春夫 "

・折れても抜き取りできるタップ 鈴木英雄 "

・蛍光灯の点灯装置

山崎隆道 "

・突切バイトの支持緊定装置 越田逸之助

* 昭和56年度

テーマ

省資源・省エネルギー・代替エネルギー利用発明考案（対象拡大）

・クーリングタワー内の冷却水内に薬品を自動的に注入する装置

サンマックス㈱ 相沢宏司 5万円

・ブライント 牧平担 4 "

・物干竿受 藤村勇治 5 "

・蛍光灯の点灯装置 橋本健 5 "

・複合渦流を発生させる内燃機関のスリーブ

アタチメント 小島敏彦 5 "

・血沈タイマー 北浜清 3 "

* 昭和57年度

テーマ

省資源・省エネルギー・代替エネルギー利用及び日常生活の向上に役立つ発明考案

・包装処理装置 白田達郎 5万円

・無煙魚焼 成宮庄次郎 "

・弾性装置 石黒安之助 "

・電動機駆動装置 橋本健 "

・折畳式正座具 桑本真佐喜 "

* 昭和58年度

テーマ

災害の防止及び日常生活の向上に役立つ発明考案

・除草器 山口三夫 3万円

・タッピングマシン 矢島克己 4 "

・方円定規 星野米男 4 "

・ケース積み重ね接続具 5 "

萩原硝子工業㈱

・鯉のぼり吹き流し装置 4万円

藤村勇治

・焼物器 成宮庄次郎 5 "

* 昭和59年度

テーマ

災害の防止及び日常生活の向上に役立つ発明考案

・くん製器 三晃製作所 5万円

・二段踏込型パーキングブレーキ解除 " "

装置 青山林太郎

・円形製図板 岡本義雄 "

・焼物器・用途網 成宮庄次郎 "

・電磁マッサージ器土川敦三 "

この補助金制度は、横浜市から25万円戴いたのをそっくり会員に交付するもので、会員増強には大きなメリットになったと同時に、創立以来20万円に固定されていた事業費補助金増額の足掛かり的効果を果たし、昭和60年度に事業費補助金が、90万円に増額されこの制度は終わった。

★横浜自社製品開発研究グループ

（異業種技術交流研究会）発足

昭和43年9月から日曜発明教室を開始して以来、法人対象の事業がおろそかになっていたので法人のみを対象とした自社製品開発研究会を昭和53年12月～昭和55年3月までの間に5回実施した。初めは会員の企業のみを対象に呼び掛けたので出席は悪かった。

第3回より横浜市工業経営協会、診断受診企業にも呼び掛け（通知約100通）たので毎回30社が集まるようになった。昭和55年度に至り、中小企業事業団より、異業種技術交流研究グループを全国的に結成するパイロットケースになって欲しいとの要望があった。

このため中小企業事業団に対し、6項目にわたるテーマを提示し、講師派遣を依頼した。

この結果3項目について受諾の通知があり、これを契機に、今までのメンバーの枠を拡大し、申込書をとりメンバーの結成をすることとした。

横浜市中小企業指導センター所長名で案内状を法人会員37、診断工場5、工経協会員85、管理者研修参加企業17、県技術補助金申請企業17、前年度参加者34、合計195

この結果34社から参加申し込みがあったので昭和56年9月1日から横浜自社製品開発研究会（異業種技術交流グループ）として発会。

10月30日全員で討議し、横浜技術コミュニケーションプラザと改称、略称Y.TECOPとし、横浜発明振興会とは別組織となった。

創立までの経費（通信費・消耗品費・印刷費・負担金・会議費等）114,978円は本会が負担した。

(4) 情報資料提供事業 (ニュース・図書貸出・印刷物)

発明に関する情報を会員に伝えることは、会にとって重要な事業の一つである。

特に国、県、市の行う発明助成事業・発明コンクール・発明展等の公募、開催をダイレクトに通知を受けることは会員として大きなメリットで、この点を重要視し努力してきた。

★ニュースの変遷

創立当初は、事業の度にニュースを不定期に発行していた。

昭和40年7月より横浜市中小企業指導センターでニュースを発行するようになったので、紙面の一部割り当てを受け、第1号から発送するようにした。このため本会ニュースは中止した。

昭和48年8月、日曜発明教室ニュースを発行、49年9月、第13号から本会ニュースに切り替え、平成3年3月で199号となっている。

1号～37号までは、用紙を印刷しておき、原紙にタイプ（詠薰氏）していただき、事務局で印刷した、手づくりであった。

38号以後はタイプ印書、オフセット印刷に切り替え質的には向上したが、経費がかさむので、会員の方から広告を戴き補いとした。

81号～127号（昭和60年3月）まで、顧問の中本守氏の揮毫によるタイトルを使用してきたが、お亡くなりになったので129号から現在のタイトルに切り替えた。

毎月決まって8ページのニュースを発行することは大変で最初の頃は隔月になったこともあった。

昭和61年にワープロが入ったので、146号から原稿を事務局で打ち、直接印刷発注するようになり毎月1日に決まって発行できるようになった。

★図書の整備と貸し出し

日曜発明教室の出席を少しでも多くしたいことから、昭和51年4月日曜発明教室の会場が横浜市中小企業指導センター会議室になってから、発明関係図書200冊を購入し1ヶ月を期間として、貸し出しを行っている。

★印刷配布したおもな資料

・5年の歩み	300冊	42-1
・あなたのアイデアを 受け付けてくれる会社	250〃	42-12
・特許発明の紛争とその 解決法	200〃	43-3
・工業所有権改正中間報告	200〃	43-7
・未来技術の展望	200〃	43-9
・工業所有権制度改正答申	200〃	44-1
・技術革新と中小企業	200〃	44-12
・発明企業化方程式	200〃	47-3
・無想と着想	200〃	48-1
・企業と特許	50〃	48-3
・特許運用基準	40〃	50-12
・省資源、省エネルギー 情報	300〃	54-5
・20周年記念会報	350〃	56-6
20年の歩み		
・「発明入門」100冊購入市内小中学校 (創意くふう展出品学校)へ贈呈		
★会員名簿の印刷配布		
36/4	44/10	59/4
37/10	49/2	61/5
38/9	53/1	63/4
41/4	54/4	平1/1
42/9	56/9	平2/6

(5) 会運営事業 (総会・役員会・新春懇親会・創立記念事業)

ア. 総会

規約により毎年1回定期に総会を開催してきた。創立総会から、昭和37年度までは半井市長が出席、昭和38年度には飛鳥田市長が出席されたこともあった。

年度	会 場	開 催 日
36	横浜開港記念会館	36. 1. 13*
37	水 川 丸	37. 7. 17
38	横浜集会所	38. 7. 17
39	水 川 丸	39. 7. 7
40	神奈川県中小企業会館	40. 7. 15
41	横浜ステーションビル	41. 6. 29☆
42		42. 5. 23
43		43. 5. 16
44	横浜酒販会館	44. 5. 27
45		45. 5. 21
46		46. 7. 16★
47		47. 6. 20
48		48. 5. 24
49		49. 5. 23
50		50. 5. 29
51		51. 5. 20
52		52. 5. 26
53	神奈川県中小企業会館	53. 4. 22
54	横浜酒販会館	54. 5. 23
55		55. 5. 20
臨時	横浜郵便貯金会館	56. 1. 13※
56	横浜酒販会館	56. 6. 10
57		57. 5. 27
58		58. 4. 25

年度	会 場	開 催 日
59	指導センター会議室	58. 6. 26
60	"	60. 5. 22
61	"	61. 5. 27
62	"	62. 6. 26
63	"	63. 6. 22
平1	"	1. 7. 5
平2	"	2. 6. 15

* 創立総会

☆創立5周年祝賀会

★創立10周年祝賀会

※臨時総会会の名称変更

創立20周年祝賀会

イ. 役員会

毎年総会前には、提出議案について、年度中には事業の執行について、年平均2回は開催してきた。昭和38年12月13日には碧翠荘に1泊し親睦を深めた。

印象が深かった役員会

昭和36年2月17日 天野修一氏よりの寄付金とり扱いについて。否決された。

昭和46年10月6日 加藤会長死亡にともなう後任会長・副会長の選任

昭和48年8月6日 成宮庄次郎氏・辻村泰作氏からの大口寄付金について

昭和53年11月15日 井上会長死亡にともなう後任会長・副会長の選任

等が強く印象に残っている。

昭和55年になり、創立20周年記念事業・補助金交付審査等で、役員会を5回開催し、役員の方にはお忙しい思いをおかけした。

昭和62年殿役員改選で、日曜発明教室の世話人であった多くの方に、理事に就任を戴きましたので、日曜発明教室終了後の世話人会があたかも役員会のような感があり、業務執行に当たり、いろいろと指導を受けてきました。

★新春懇親会

法人会員と個人会員との人間関係を作りアイデアの交流を図るのが、会の主たる目的である。このための一つとして、昭和39年1月14日横浜開港記念会館で、新春懇親会を開催したところ好評だったので、昭和41年1月から毎年1月下旬に開催してきた。

賀詞交換を主体として来たが、会員の中から叙勲者・褒章受章者が出来るようになったので、この方々に対するお祝いも併せ行った。



本会は個人会員が多いので、昭和52年までは午後5時～8時までの夜間開催としていたため、平均45名の出席者があったが、老人の出席者も多く寒い時期なので、昭和53年以降は午後2時～5時の昼間に切り替えたので平均33名の出席者に減少した。

昭和51年からアイデア福引きを継続実施、趣向をこらし、親睦が主体なので、話題は定めてないが、毎回中本顧問さん（S60／2故人）のテープルスピーチは大変有意義であり、松本栄吉さん（S56／1故人、S2～S18発明協会横浜支部事務局担当）の声色が皮切りでノド自慢となり、他の団体では醸し出せない和やかさであった。

半井さん、経済局長さんも必ず出席されました。

昭和61年1月13日第197回日曜発明教室から、毎年1月の日曜発明教室を兼ねて新春懇親会を行うようにしたので、それまでの雰囲気とは大部となるようになつた。

★創立記念行事

ア. 創立5周年記念事業

- ・祝賀会 41-6-29
横浜ステーションビルフラワールーム
昭和41年度総会終了後パーティーを行う。

- 出席 49名
- ・「5年の歩み」 300冊印刷配布
- ・同発刊祝い懇談会 42-2-20
横浜ステーションビルフラワールーム
出席 50名
- ・記念品（タバコケース）160個
会員・関係者へ贈呈

イ. 創立10周年記念事業

- ・記念式典・祝賀会 46-7-16
横浜酒販会館 出席 51名
- ・尽力者22名に感謝状・記念品贈呈
- ・「10年の歩み」 300冊印刷配布
- ・会マーク入ネクタイピン200個
会員に贈呈

ウ. 創立20周年記念事業

- ・記念式典・祝賀会
横浜郵便貯金会館 56-1-13
出席 90名
- ・半井元横浜市長に感謝決議文贈呈
- ・横浜市長感謝状・記念品贈呈 11名
- ・会長より感謝状・記念品贈呈 10名
- ・会長より感謝状贈呈（10年以上会員）
25社 44名
- ・記念講演 講師 豊沢 豊雄 氏
- ・記念撮影
- ・「20年の歩み」 350冊印刷配布
- ・記念品 半井元横浜市長署名入り手ぬぐい
350本 全会員贈呈

エ. 会長経歴

- 初代 加藤 清右衛門 氏
昭和36年1月13日（創立）より
昭和46年8月24日（逝去）まで 10年
- 2代目 井上 太保 氏
昭和46年10月6日 理事会で選任
昭和53年10月14日（逝去）まで 8年
- 3代目 小林 甲蔵 氏
昭和53年11月15日 理事会で選任
昭和56年6月10日 退任 3年
- 4代目 三橋 良夫 氏
昭和56年6月10日 就任現在に至る。

エ. 規約の改正過程

- 昭和43年5月16日 第7条の一部改正
(会費改定)
- 昭和44年5月27日 第11条・13条・14条
(役員に副会長1名を設ける)
- 昭和47年6月20日 第7条（個人会費改定）
第8条（入会金納入）
第11・13・14条
(副会長1名追加)
(常務理事を設定)
- 第18条（参与をおく）
- 昭和51年5月20日 第1条（事務所の位置変更）
第7条（会費改定）
- 昭和56年6月10日 第1条（会の名称変更）
第3条（会の目的に日曜発明教室を追加）
第7条（会費改定）
- 昭和60年5月22日 第7条（会費改定）
(個人会分割納入追加)
- 第11条（日曜発明教室世話人追加）
- 平成元年7月5日 第1条（事務所の位置改定）
第11・13・14条
(専務理事追加)
- 第19・27条
(事務局長名称改定)
- 平成2年6月15日 第1条（事務所の位置変更）
移転後は自動的に住所変更をする。

(6) 財務 (会員の推移・会費・収入・支出)

ア. 30年間の会員の推移

年度	法人会員	個人会員	合計
創立当初A	37	47	84
入会総数B	38	696	734
退会総数C	45	478	523
A + B - C 現在総数	30	265	295

会員数は創立以来横這い状態であった。事業が活発に成った昭和42年度から増加しはじめ、特に日曜発明教室を始めた昭和43年から増加の一途を辿っている。

会員は、発明に意欲を失えば退会して行くのでそれを上回る会員を入会させなければ、会は発展しない。

上記の表が示すように、現在295の会員数で、創立時の84と比べれば3.6倍と成っている。30年でわずかこれだけかと思われるかも知れないが、設立当時の会員数84に入会数734を加えれば今までに818名の方が本会に関わりを持ったことになる。

創立30周年にあたって会員の在席年数を調査したところ、別表のように5年以内の個人会員が64.4%を占めており、短期に退会される方が多く、会員の管理に多くの時間を掛けている。

法人会員は10年以上が90%で、創立以来増加していないのは、自社製品開発研究会（その後

横浜技術コミュニケーションプラザと改称）をきりはなし独立させ、事務局を兼務したこと、同じ横浜市の補助を受けている工業者の団体にも関係していたので、法人会員を積極的に勧誘しなかった等の理由によります。

★会員在籍率表

在籍年数	会員数	割合	備考
1～5	190	64.4%	
6～10	29	9.8%	
11～15	31	10.5%	
16～20	13	4.4%	
21～25	8	2.7%	
26～30	24	8.2%	法人15個人9
合計	295	100%	

イ. 会費の推移

成るべく値上げをしない方針で運営してきたが、事業の活発化と物価の値上がりには勝てず、一時ピッヂが詰まった。

会員別年齢	法人会費	個人会費
36年～42年	3,000円	1,000円
43年～46年	5,000円	1,500円
47年～49年		2,000円
50年	6,000円	
51年～55年	10,000円	3,000円
56年～59年	12,000円	5,000円
60年～	15,000円	6,000円

昭和60年度に会費改定を行った際、個人会費については前期、後期の2回に分けて納入して頂くようにしたが、平成3年度から一括納入に戻した。

ウ. 収入について

昭和36年度～平成2年度まで30年間の実績 (単位 千円)

横浜市補助金総額	12,624
会費収入	27,093
事業収入・その他	7,068
合計	46,785
会費内訳 年会費	(23,060)
臨時会費	(4,033)

エ. 支出について

昭和36年度～平成2年度まで30年間の実績 (単位 千円)

事業費総額	26,453
(この内補助金 1,250を含む)	
運営費総額	20,270
(創立記念事業費 3,803を含む)	
合計	46,723

オ. 収入・支出について

創立以来昭和42年まで7年間は会員の増加(1.9倍)分と、昭和40年から新春懇親会をはじめたので臨時会費徴収分が総収入額を増加させた。

昭和43年度から日曜発明教室を開始したので、事業収入が増加し始めた。更に個人会員の伸びが大きく44年(2.1倍)、50年(2.7倍)となつたため47年度から個人会費の収入が法人会費の収入を上回るようになった。

昭和46年に10周年記念行事を行うため昭和45年度の新春懇親会を中止したのでその臨時会費分だけが減収になった。昭和43・47と個人会費の値上げを行い法人会員との比率を1:2.5とし、この比率を保ち、昭和50年にも値上げを行った。

昭和48年、日曜発明教室を盛大にしてほしいと会員の方から多額の寄付金があり、これを割引債として翌年度から基金利子として収入に加えたので収入総額は増加した。

しかし、昭和46・48～53・55・58・59・各年度に亘って基金より繰り入れ金を仰いで収支のバランスをとってきた。

創立以来20万円であった横浜市の事業費補助金は昭和55年度から45万円(助成金25万)と増加し、昭和60年度からは90万円となり、平成2年度には創立30周年記念事業として一般事業費を含めて190万円の補助金交付を受けました。

カ. 基金について

横浜市からの補助金を受けているので、決算は収支トントンに近くする必要がある。

繰越金が少ないと、新年度当初の運営に支障を来す事になるので、昭和36年度～38年度までは、

発明協会横浜市部会残金2,480円に発会式残金、天野氏の寄付金、預金利子を加え基金とし、これに総会費を加えた金額を繰越金としてきた。

昭和39年度から、一般会計から切り離し、別途会計報告として基金を積み立てるようになった。昭和48年、辻村泰作（理事）氏から、夫人の香典返しをせず、その分の10万円を寄付戴き、これが呼び水となればとの口添えがあった。

その後すぐに成宮庄次郎氏、小林甲藏氏から日曜発明教室を盛大にしてほしいとのご希望で大口の寄付があり金利を日曜発明教室運営資金として一般会計に繰り入れさせていただいた。

その後半井清氏、富田仙之助氏、松本栄吉氏遺族、矢島克己氏その他の寄付金があり、昭和63年佐藤正美氏、昭和63年、平成元年三橋良夫氏から大口の寄付があり、30周年記念事業に使わせていただきました。

昭和36年度～平成2年度まで30年間の実績
(単位 円)

基金収入総額	4,347,073
(内 訳) 特別大口寄付金	2,694,850
寄付金扱い	205,768
戻し入れ金	439,345
利子・その他	1,007,110
基金総支出額	2,408,775
(内 訳) 一般会計貸付金	561,119
30周年繰出金	1,100,000
日曜発明教室費	747,656

差引残金 1,938,298

(内 訳) 証券1,170,000 預金 768,298

会員の皆様のご協力によりこの様に基金が蓄積されました。

一般会計が赤字になったときは、しばしば流用(流用額561,119円)し、余裕ができると、戻入れ(戻入額439,345円)するなど有効に活用してきた

寄付をしていただいた方の意思を尊重し、固定基金とし、割引き債券1,170,000円を設定、取り崩しをしないよう心掛けている。

(7) 事務局 (所在地の変遷・人事・財産目録)

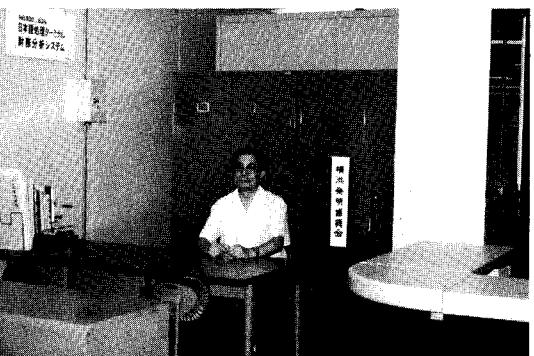
ア. 事務局所在地の変遷

創立当初、横浜工業館内に事務局を置いたが、昭和39年3月17日、横浜市中小企業指導センターが設立され、工業館2階に移転したので、以後横浜市より正式に指導センター内事務所(約3坪)を借り受けた。(無料)

昭和51年2月12日、横浜朝日会館6階へ移転。有料となり3m²分の家賃を支払うようになつたが、事務局担当者が横浜市の現職のため特に区切りはなかった。

昭和55年当時の工業課長岡本 担氏のアドバイスにより昭和55年度から横浜市が負担するようになり、看板料のみを支払うようになった。

事務局担当者が横浜市を定年退職したので、指導センターの好意により、同所入り口左側内に約8m²(2.5坪)の場所を戴き昭和57年9月1日初めて独立した事務所を開設した。



昭和59年10月、指導センターがOA機器導入に当たり、事務所のレイアウト変更が行われ、全く同じ面積で入り口の右側に移転した。

平成元年4月1日より、横浜市の意向により横浜市中小企業総連合会所属となったので、平成元年6月26日同会へ移転を完了した。

スペースが縮小されたので、今まで使用してい

た机、椅子、書類ロッカーなどの大半を処分した。

平成2年4月1日より、横浜市工業会連合会所属となったが、事務所はそのままで、平成2年9月末、テクノウェイブ100 17Fに移転し、机・椅子・書類ロッカー等新規に購入、10月1日より業務を開始した。

イ. 事務局人事

創立当初、専任の職員が置けるようになるまで、事務局は、横浜市経済局中小企業課が担当することになった。

昭和36年1月創立当初
事務長 島根 正光 中小企業課長
主 事 鈴木 洋二 同 指導係長
書 記 一之瀬喜一 同 指導係

したがって市の人事異動があれば、自動的に事務局員が変わることになり、歴代の課長が事務長となってきた。

昭和39年3月、横浜市の機構改革があり、新たに横浜市中小企業指導センターが設立された。

したがって鈴木所長が事務長となり、岩淵相談指導係長、笠原経営指導係長が参与、経営指導係員植岡・一之瀬が主事となった。

昭和46年12月鈴木所長が退職し、新たに川井專蔵氏が所長に就任したが同氏の意向により、昭和47年度総会で規約の改正を行い、横浜市中小企業指導センター所長は常務理事とし、事務局主事であった一之瀬 喜一が事務長となった。

以後この人事を続けてきたが、平成元年4月1日より横浜市中小企業総連合会所属になるにおよび、平成元年度総会において規約の改正を行い、新たに専務理事をもうけることとし、事務長を事務局長とした。

したがって同会の専務理事が本会の専務理事に、事務局長が、常務理事 事務局長となった。
(指導センター所長は理事となる)

平成2年4月1日より横浜市工業会連合会所属となつたので、同会専務理事を本会専務理事とし常務理事事務局長は一之瀬 喜一が就任した。

ウ. 財産目録

両袖机	(岡村DB03zD)	1
肘突椅子	(〃 2743ZW)	1
引違い書庫	(〃N443ZB)	1
両開き書庫	(〃N431ZZ)	1
ベース	(N490ZZ)	1
折り畳椅子	(中込製8151AZ)	1 2
引違い書庫	(〃 2段重ね)	1
レターケース	2	
ワードプロセッサー	Rupo JW95HD 95HP	1
"	SHAP WDA-600(寄贈)	1	
ポラロイドカメラ	(寄贈)	1
ミノルタカメラ	SRT 1140238	1
ワイヤレスアンプ	TOA WA-600	1
"	マイク TOA WM-210	1
"	" TOA WM-300	1
16mm映写機	ベルハウェル(寄贈)	1
日曜発明教室用品			
電気ポット 象印	CWD-S30 0300725	1
" "	0401019	1
ポット	" AAD-30S 360023	1
" "	360101	1
やかん	三協アルミ 5ℓ	1
"	3ℓ	1
手提げ金庫	2	
印 箱	1	

プリントゴッコ	1
会 旗・国 旗	各 1
チェックライター (寄贈)	1
発明関係図書 (寄贈を含む)	90 冊

(7)横浜市よりの委託事業について

横浜発明振興会の事務局は現職の横浜市職員が担当していたが、昭和57年に定年退職することから、今後の人件費は補助金よりも事業委託料として交付した方がよいとの、横浜市当局の計らいで、昭和57年度から発明相談と横浜技術コミュニケーションプラザ事務の委託を受けることとなつた。

ア. 発明相談業務委託事業実績

年度	相談件数	窓口開設日数	相 談 日
57	130	248	月～金
58	109	249	"
59	110	248	"
60	162	250	"
61	198	246	"
62	201	248	"
63	219	246	"
平1	188	200	月～木
平2	175	203	"

- イ. 横浜技術コミュニケーションプラザ業務
昭和56年創立から平成2年3月まで、会運営業務の一切を実施してきた。
- *例会の開催 毎月第3水曜日
- *講習会の開催 随時
- *工場見学
- *テクニカルショウ グループ参加
- *全国大会・ブロック大会 参加
- *融合化財団加盟
- *新春懇親会
- *世話人会の開催
- *他プラザとの交流
- *経理事務
- *毎月ニュースの発行
- *その他会運営に必要な一切の事務

横浜発明振興会 年表

4. おわりに

A. 30年のあゆみ編集に当たって

今までに、5年、10年、20年の記録として「あゆみ」を編集し発行してきました。

年数がたつと、書類が膨大になることから20年の歩みはできるだけ詳しく編集して、必要な書類以外の書類は処分するようにした。

事務局は、市役所→商工奨励館→朝日会館→館内移動→テクノウェイブ100と4回引っ越しを行いました。その度に身軽にならざるをえなかつたので、総会議案の事業報告・決算報告はできるだけ詳細に記録するようにしてきました。30年間の議案書をもって歩けば全て編集できるつもりでいましたが、30冊の議案書をめくってみると、議案書が精密に書いてあったり、ラフであったりして、作製時点での私の精神状態が良く分かります。したがって多少の不備があり古い書類を引張り出すこともありました。

20年のあゆみに後10年分のデータを加えて編集すればよいと思いますが、それでは多くのページを必要としますので、補助金交付など金銭に関係のあったものは詳細に記録し、いろいろなデータは総合計を掲載するようにしました。

三橋会長のアドバイスにより30年表を作成したので、いつ、どこで、なにを、したかの実績はこれを参照して下さい。

OA機器の普及はめざましく、本会でもワープロを駆使しています。

このあゆみ印刷に当たって、ほとんどの部分はワープロで印字し、MS-DOS変換したフロッピーを印刷会社に提供し印刷してもらうシステムにしましたので、ワープロ印字に手間取り発行が遅れましたことをお詫び致します。

イ.あとがき

会が創立した当時私は39才でした。以来69才になる今日まで30年間人生の大半を会の運営業務を担当してきました。

したがってこの会と私は一心同体のように感じられ、30年のあゆみ編集に当たっては自分の経歴を掘り起こし記録しているようでした。

私は豊臣秀吉の木下藤吉郎時代の生き方、すなわち自己の職務に創意を働かせ全力を尽くすことに共感をもっておりました。

工作機械の生産工場から、事務員として役所に入り全く違った環境でしたが、事務吏員に徹するため2年間夜間研修に通いました。

研修を終わり事務吏員に昇格した直後、経済局へ転勤を命じられ、技術吏員となつたが、むしろこのほうが前歴を生かせると思い診断士になることに全力を尽くしました。当時の商工課指導係は工場の診断指導の他に工業に関するいろいろな仕事をしていました。発明奨励事業もその一つで昭和30年先輩の仕事を手伝つているうちに、発明奨励事業は私の担当になつてしましました。

私が発明に関わったのはここからですと、36年になるわけです。古くから知っている印刷会社の社長が、定年退職後も勤めるために会を作ったのだろうと冗談めかしに私に言ったことがあります。結果的にはそうなっていますが、亡くなられた顧問の中本先生から、「無心」の揮毫をいただきました。私は会を利用して自分をなんとかしようと思ったことは一度もなく常に「無心」で運営に当たっていました。唯一の楽しみは会員の発明が成功して、その報告を受け共に喜びあうことです。

事務局長 一之瀬 喜一

昭和34年	12月	会の生まれるまで	
		小林甲蔵氏が半井市長より会設立の内意を受けた旨、経済局中小企業課に相談に来所。職制を通じても市長から指示があったので同課指導係の事業とする事となり市内の発明家有志に呼び掛け設立に付いて横浜工業館にて協議した。 (6名)	昭和38年
昭和35年	1月14日	横浜工業館にて発起人会規約案・会員募集・発会について協議(8名)	昭和39年
	2月15日	横浜工業館にて第2回発起人会 会の性格・顧問・発起人代表・会費等について協議した。(6名)	
	9月末	発起人・顧問の依頼 趣意書・規約案を印刷、会員募集を開始	
	10月13日	日刊工業新聞東京版掲載 11月末法人37社・個人43名、合計80名の申し込みがあった。	
	12月19日	横浜クラブにて発起人会規約案の一部改正・創立総会役員・総会の運営・記念パーティー等について協議した。(5名)	昭和40年
横浜発明懇話会発会			
昭和36年	1月13日	創立総会 横浜開港記念会館 出席半井市長・船引助役 阿久沢日刊工業支社長他市 関係者・会員60名 会の所在地 横浜工業館と した。	
	3月31日	第12回神奈川県発明展後援 会長賞 贈呈	
【昭和36年度】			
昭和37年	4月13日	天野修一氏基金寄付感謝状	昭和41年
	6月15日	講演会 講師 豊沢豊雄氏 横浜開港記念会館	
	12月5日	第12回神奈川県発明展後援 会長賞 贈呈	
	12月25日	研究会 講師 荒井文治氏	
	1月17日	東京都立アイソトープ総合 研究所見学	
	3月27日	講演会 講師 尾崎藤明氏 破損防止の街路灯2件に奨 励金交付	
【昭和40年度】			
昭和38年	7月17日	総会 氷川丸	
	12月13日	役員会 碧翠荘	
	1月26日	第14回神奈川県発明展共催 高島屋	
	2月13日	八幡製鉄東京研究所見学	
	3月24日	第4回全国発明工夫コンクール展(三越)・発明会館見学	
	7月17日	〔昭和38年度〕 総会 横浜集会所	
	(役員改選)	国鉄技術研究所見学 第15回神奈川県発明展共催 川崎さいか屋	
	10月30日	懇談会 開港記念会館	
	11月1日	事務局移転 商工奨励館 2F横浜市中小 企業指導センターへ	
	1月14日	〔昭和39年度〕 総会氷川丸	
昭和39年	3月31日	講演浦山公明氏 第16回神奈川県発明展共催 野沢屋	
	7月7日	クロレラ研究所見学 研究会 講師 山田儀一氏	
	11月10日	横浜ステーションビル	
	12月2日	研究会 講師 中山正和氏	
	3月8日	横浜ステーションビル	
	3月24日	日産自動車追浜工場見学	
	3月30日	〔昭和40年度〕 総会 神奈川県中小企業 会館	
	7月15日	センターニュース第1号 発行 会のニュースは廃止	
	7月26日	研究会 講師 滝沢一男氏 神奈川県歯科医師会館	
	9月24日	第17回神奈川県発明展共催 川崎さいか屋	
昭和40年	10月29日	工場見学 田中サッシュ工業	
	11月26日	かもめプロペラ 新春懇親会	
	1月25日	横浜ステーションビル	
	2月25日	研究会 講師 岡藤吉氏 横浜ステーションビル	
	3月18日	工場見学各務クリスタルと 全国発明工夫コンクール	
	6月29日	〔昭和41年度〕 総会 横浜ステーションビル 座談会 横浜市における 発明奨励事業の移り変わり	

昭和41年	出席 半井清・梅川雪夫 芦葉清三郎・添田清二郎 研究会 講師 伊東 等氏 横浜ステーションビル 研究会 オートスライドによる 10月11日 第18回神奈川県発明展共催 野沢屋 11月 2日 工場見学 国際鉄工・日本金網 2月20日 創立5周年祝賀会 横浜ステーションビル 5年の歩み印刷配布 300冊 記念品(タバコケース) 全会員配布(160ヶ)	昭和44年	1月19日 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール 新春懇親会・叙勲祝賀会 酒販会館5Fホール *毎月第2日曜日日曜発明教室開催第1回~7回	昭和47年	9月15日 第23回神奈川県発明展共催 川崎さいかや 10月 2日 第4回横浜市小中学生創意くふう展後援 有隣堂 会長賞贈呈 10月 6日 理事会 会長 井上太保氏 副会長 成宮庄次郎氏選任 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール 1月20日 新春懇親会 酒販会館5Fホール 2月13日 研究会 講師 筒井一郎氏 神奈川県中小企業会館 3月12日 研究会 講師 関 実氏 神奈川県中小企業会館 *毎月第2日曜日日曜発明教室開催第32回~43回	昭和49年	9月28日 川崎さいか屋 第6回横浜市小中学生創意くふう展後 有隣堂 会長賞贈呈 11月11日 研究会 講師 白田達郎氏 神奈川県中小企業会館 12月 9日 研究会 講師 石井一市氏 神奈川県中小企業会館 新春懇親会 酒販会館5Fホール 2月 7日 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール 3月10日 研究会 講師 三木迪夫氏 神奈川県中小企業会館 *毎月第2日曜日日曜発明教室開催第56回~67回 *成宮庄次郎氏・辻村泰作氏 小林甲藏宇治基金寄付
昭和42年	[昭和42年度] 5月23日 総会横浜ステーションビル (役員改選) 講演 講師 味田 刚氏 6月22日 研究会 講師 尾崎正直氏 8月23日 理事会 日曜発明教室開催について 横浜市中小企業指導センター会議室 映画会(工業館共催) 10月19日 第19回神奈川県発明展共催 川崎さいか屋 10月26日 発明展研究会 横浜ステーションビル 11月 7日 工場見学会 大木染色・京浜精練 1月19日 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール 1月29日 新春懇親会 横浜ステーションビル	昭和45年	5月27日(役員改選) 総会 酒販会館5Fホール 映画(ゾナー提供) 6月 6日 講演会 講師 岸田純之助氏 酒販会館ホール 9月 4日 第21回神奈川県発明展共催 川崎さいか屋 10月12日 研究会 講師 伊藤 甫氏 神奈川県中小企業会館 10月15日 工場見学会 日本ナショナル金銭登録機 神奈川県工芸指導所 新春懇親会・叙勲祝賀会 横浜ステーションビル 1月16日 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール *毎月第2日曜日日曜発明教室開催 第8回~19回	昭和48年	[昭和47年度] 6月20日 総会 酒販会館5Fホール 会費改定 法人会費5,000円据えおき 個人会費1,500円→2,000円 規約改定 理事・監事は総会で選出 常務理事・参与をおく 8月13日 研究会 講師 三橋良夫氏 神奈川県中小企業会館 9月13日 第24回神奈川県発明展共催 横浜ステーションビル 9月29日 第5回横浜市小中学生創意くふう展後援 有隣堂 会長賞贈呈 10月 8日 研究会 講師 井上太保氏 神奈川県中小企業会館 12月17日 研究会 講師 三浦満義氏 神奈川県中小企業会館 1月16日 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール 1月17日 新春懇親会 酒販会館5Fホール *毎月第2日曜日日曜発明教室開催第44回~55回	昭和50年	[昭和49年度] 5月12日 第1回日曜発明教室発表 作品展示コンクール 5月23日 総会 酒販会館5Fホール 基金寄付者に感謝状贈呈 講演 講師 橋本 健氏 講演会 講師 杉本 豊氏 酒販会館5Fホール 8月11日 研究会 講師 吉見義衛氏 神奈川県中小企業会館 8月13日 第26回神奈川県発明展共催 横浜ステーションビル 9月28日 第7回横浜市小中学生創意くふう展後援 有隣堂 会長賞贈呈 11月10日 研究会 講師 大木精三氏 神奈川県中小企業会館 1月 7日 講演会 講師 中西重思氏 神奈川県住宅供給公社 2月 9日 研究会 講師 北岡 実氏 神奈川県中小企業会館 *毎月第2日曜日日曜発明教室開催第68回~79回
昭和43年	[昭和43年度] 5月16日 総会 横浜ステーションビル 日曜発明教室の開催を決定 会費改定 法人会費3,000円→5,000円 個人会費1,000円→1,500円 講演 講師 鯨井氏 講演会 講師 牧野 昇氏 酒販会館5Fホール 7月17日 理事会 日曜発明教室の開設について 9月 8日 第1回日曜発明教室開始 毎月第2日曜日午後1時~5時 横浜開港記念会館 9月19日 第20回神奈川県発明展共催 野沢屋6Fホール 11月10日 日曜発明教室会場を神奈川県中小企業会館移転 12月 8日 研究会 講師 橋本 健氏 中小企業会館	昭和46年	5月21日 総会 酒販会館ホール 講演 講師 浦山 公明氏 6月16日 講演会 講師 糸川 英夫氏 神奈川県工業会館 9月17日 第22回神奈川県発明展共催 野沢屋6Fホール 9月26日 第3回横浜市小中学生創意くふう展後援 有隣堂(入賞者80名に記念品贈呈) 11月 8日 研究会 講師 清水 重一氏 神奈川県中小企業会館 1月27日 講演会 講師 中西重思氏 商工会議所ホール *毎月第2日曜日日曜発明教室開催第20回~31回	昭和49年	[昭和46年度] 6月21日 講演会 講師 堤 佳辰氏 酒販会館ホール 7月16日(役員改選) 総会・創立10周年記念式典・祝賀会 酒販会館ホール 尽力者22名に感謝状・記念品贈呈。会報10年の歩み(300)発行。全会員にマーカ入りネクタイピン贈呈。 初代会長加藤清右衛門氏逝去	昭和51年	[昭和48年度] 4月 8日 研究会 講師 塩崎芳男氏 神奈川県中小企業会館 5月24日(役員改選) 総会酒販会館5Fホール 講演 筒井一郎氏 講演会 講師 高橋 浩氏 酒販会館5Fホール 8月12日 研究会 講師 笹沼喜美賀氏 神奈川県中小企業会館 9月13日 第25回神奈川県発明展共催

昭和51年	アイデアブック 100円 講習会のある月	100円
	一般 400円	
	小中学生 200円	
	会員 300円	
	6月 8日 研究会 講師 雨宮紋一氏 神奈川県中小企業会館	
	6月 26日 講演会 講師 栄久庵憲司氏	
	7月 13日 プロジェクトチーム発足 メンバー6名 第1回会合	
	8月 5日 同第2回会合 以後毎月1回 5回実施 横浜市中小企業指導センター	
	8月 10日 研究会 講師 加留部健氏 神奈川県中小企業会館	
	9月 18日 第27回神奈川県発明考案展 共催 川崎こみやデパート 第8回横浜市小中学生創意 くふう展後援会長賞贈呈 横浜市教育文化センター	
昭和52年	11月 9日 研究会 講師 大貫和保氏 神奈川県中小企業会館	
	12月 16日 研究会 講師 碓井 貢氏 横浜Y.M.C.A会館	
	1月 19日 新春懇親会 横浜酒販会館	
	2月 12日 横浜朝日会館 6Fへ事務局 移転	
	3月 14日 研究会 講師 渡辺タカ子氏 神奈川県中小企業会館 *毎月第2日曜日日曜発明教 室開催第80回～91回	
	「昭和51年度」 4月 11日 第92回日曜発明教室より 会場を横浜市中小企業指導 センターに移転	
	5月 9日 第3回日曜発明教室発表 作品展示コンクール 出品21点 13名	
	5月 20日 総会 横浜酒販会館 会費改定 法人会費6,000円→10,000円 個人会費2,500円→3,000円 日曜発明教室会費改定 一般 300円→400円 小中学生 150円→200円 会員 200円→300円 (アイデアブック共) アイデアブック 100円 講習会のある月	
	6月 10日 研究会	500円
	小中学生 300円	
	会員 400円	
昭和53年	講師 電々公社横浜営業所 牧 収藏・鈴木幸雄氏 横浜酒販会館	
	6月 13日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター	
	7月 11日 研究会 毎日産業映画上映 横浜市中小企業指導センター	
	8月 8日 大人と子供の日曜発明教室 講師 松永宣行氏 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター	
	9月 12日 研究会 講師 堀内重雄 横浜市中小企業指導センター	
	9月 25日 第9回横浜市小中学生創意 くふう展後援 横浜市民ギャラリー	
	10月 10日 研究会 強力万能ハンダアルミット 実演 横浜市中小企業指導センター	
	10月 13日 第28回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール	
	11月 14日 研究会 講師 池田 宏 横浜市中小企業指導センター	
	12月 12日 日曜発明教室100回記念行 事 講演会講師豊沢豊雄氏 功労者表彰 5名 記念パーティー 寿宴 1月 25日 研究会 講師 中西重思氏 YMCA	
昭和54年	1月 27日 創立15周年祝い新春懇親会 横浜酒販会館 アトラクション 映画・福引 工場見学会 横浜プレシジョン *毎月第2日曜日日曜発明教 室開催第92回～103回	
	4月 10日 「昭和52年度」 第4回日曜発明教室発表 作品展示コンクール 出品19点 参加13名 *第1回褒章受章者発明 講演会 講師 正田乙女氏 横浜市中小企業指導センター	
	5月 26日 (役員改選) 総会 横浜酒販会館 講演 講師 中山道治氏	
	6月 23日 講演会 講師 森本三男氏 YMCA	
	10月 7日 第10回横浜市小中学生創意 くふう展後援 横浜市民ギャラリー	
	10月 9日 研究会 講師 石井一市氏 横浜市中小企業指導センター	
	10月 13日 第29回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール	
	10月 26日 工場見学会 (株)三晃製作所 (株)細谷製作所	
	11月 13日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター	
	1月 24日 新春懇親会 映画・福引 横浜酒販会館	
昭和55年	1月 26日 講演会 講師 別当 薫氏 横浜産貿センター 8F	
	3月 12日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター *毎月第2日曜日日曜発明教 室開催 第104回～115回	
	「昭和53年度」 4月 9日 第5回日曜発明教室発表作 品展示コンクール 出品点数25点 参加者14名 *第2回褒章受章者講演会 講師 藤増 次郎氏 横浜市中小企業指導センター	
	4月 22日 総会 神奈川県中小企業会 館 監事1名改選 記念講演 講師 小野 貞吉氏 工場見学フィルム上映	
	9月 10日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター	
	10月 6日 第11回横浜市小中学生創意 くふう展後援 横浜産貿ホール	
	10月 8日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター	
	10月 14日 第30回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール *井上太保会長逝去	
	11月 12日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター 会長、役員の専任 小林甲蔵会長就任	
	11月 15日 横浜市中小企業指導センター 自社製品開発研究会① 講師 吉池科研機器(株)社長 吉池 極氏	
昭和56年	12月 5日 横浜市中小企業指導センター 新春懇親会 映画・福引 横浜酒販会館	
	1月 17日 研究会 講師 井上昭二氏 横浜市中小企業指導センター 新春懇親会 映画・福引 横浜酒販会館	
	3月 9日 研究会 講師 石坂音治氏 講師 北岡 実氏 横浜市中小企業指導センター 自社製品開発研究会⑤ 講師 (株)サンゴ社長 佐藤正美氏	
	3月 18日 横浜市中小企業指導センター	
昭和57年	2月 6日 自社製品開発研究会② 講師 (有)横浜滅菌工業会長 小林 甲蔵氏 横浜市中小企業指導センター 3月 5日 自社製品開発研究会③ 講師 開発経営研究所 浦山 公明氏 横浜朝日会館 3F 3月 11日 研究会 講師竹内五一郎氏 横浜市中小企業指導センター *プロジェクトチーム 6名が毎月5日に会合 53/12より発明推進部会と 改称 *毎月第2日曜日日曜発明教 室開催 第116回～127回	

昭和56年	* 每月第2日曜日曜発明教室開催 第128回～139回			
	「昭和55年度」			
	4月13日 第7回日曜発明教室発表 作品展示コンクール 出品点数24点 参加者16名 * 第4回褒章受章者発明講演会 講師 野口 雪雄氏			
	5月20日 総会 横浜酒販会館 記念映画・懇親会			
	6月24日 補助金交付要項作成員会 横浜市中小企業指導センター			
	9月18日 第13回横浜市小中学生創意くふう展後援 会長賞贈呈			
	9月29日 自社製品開発研究会⑥ 講師 新井澄夫氏			
	10月8日 第32回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール			
	10月23日 補助金交付審査会2件交付 決定 横浜市中小企業指導センター			
	12月9日 補助金交付審査会3件交付 決定			
	1月13日 * 臨時総会 昭和56年4月1日より横浜発明振興会と名称変更決定 半井清元横浜市長に感謝決議 * 創立20周年記念祝賀会 式典 感謝状・記念品贈呈 記念手拭(半井氏署名)会員贈呈 記念写真撮影 記念講演 講師 豊沢 豊雄氏 記念パーティー 記念誌「20年のあゆみ」 印刷配布 横浜郵便貯金会館			
	2月8日 研究会 講師 筒井一郎氏 自社製品開発研究会⑦ 講師 佐々木彬夫氏 * 每月第2日曜日曜発明教室開催 第140回～151回 発表・出席者を多くするため 最多発表賞6件以上 皆勤賞精勤賞9回以上 の賞制度を設けた。 * 今年度実施の自社製品開発研究会は中小企業事業団の要請により異業種交流研究会のパイロットスタディとした。			
	3月5日			
昭和57年	4月12日 「昭和56年度」 第8回日曜発明教室発表 作品展示コンクール 出品点数26点 参加者18名 * 最多発表賞・皆勤賞・精勤賞の贈呈 * 第5回褒章受章者発明講演会 講師 桜井 正雄氏 横浜市中小企業指導センター 総会 横浜酒販会館			
	6月10日 (役員改選) 規約改定横浜発明振興会と改称日曜発明教室を事業目的に加入 会費改定法人会費￥12,000 個人会費￥5,000 懇親会・創立20周年記念式典 ビデオ上映 講演 講師 中本 守氏			
	9月13日 第157回日曜発明教室から荒井文治氏の基礎電機・機械の物理学講座連続開始(7回) 横浜市中小企業指導センター			
	9月18日 第14回横浜市小中学生創意くふう展後援 会長賞贈呈 横浜市民ギャラリー			
	10月28日 第33回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール 省資源・省エネルギー・代替エネルギー補助金交付委員会 6件交付決定 * 新春懇親会 賀詞交歎 福引 横浜酒販会館			
	1月25日 研究会 講師 大貫和保氏 横浜市中小企業指導センター * 每月第2日曜日曜発明教室開催第152回～163回			
	2月14日 横浜自社製品開発研究グループ(異業種交流研究会)結成 第1回研究会 講師 ㈱オリイ社長 折井 勝氏 横浜市中小企業指導センター			
	9月24日 第2回研究会 講師 ㈱日本科学振興財団 鳴本 久寿弥太氏 横浜市中小企業指導センター			
	10月30日 第1回世話人会 会費・略称・ルール決定 横浜俱楽部会議室			
	11月11日			
	11月17日 第3回研究会 横浜・秋田合同研究会 交流状況発表 講演会 講師 佐橋 慶氏 懇親パーティー 横浜国際会議場 これを機会に横浜技術コミュニケーションプラザと改称 第4回研究会 メンバーの自己紹介 横浜市中小企業指導センター 第2回世話人会 アンケート集計スケジュール決定 第5回研究会 メンバーの自己紹介 特別研修 講師 梅沢合金(株) 菅原富士夫氏 横浜市中小企業指導センター 第6回研究会 メンバーの自己紹介 特別研修 講師 日本真空電機(株) 牧野六彦氏 横浜市中小企業指導センター 3月1日 全国大会参加 3月17日 相互訪問研究会 田中サッシュ工業(株) 横浜プレンジョン(株)			
	12月15日 1月20日 2月17日 3月1日 3月17日			
	4月11日 「昭和57年度」 第9回日曜発明教室発表作品展示コンクール 出品点数25点 参加者18名 * 第6回褒章受章者発明講演会 講師 キャノン(株) 荒 哲哉氏 5月19日 小林甲藏元会長逝去 21日 同氏告別式 5月27日 総会 横浜酒販会館 講演 読売新聞 中村 正雄氏 9月1日 事務所開設 横浜市中小企業指導センター 9月3日 半井 清元横浜市長逝去 9月25日 同氏告別式 9月26日 横浜女子短期大学 第15回横浜市小中学生創意くふう展後援会長賞贈呈 横浜市民ギャラリー 一之瀬喜一事務局長 科学技術庁長官賞受賞 祝賀会 ホテルヨコハマ 山田屋			
	4月10日 4月25日 (役員改選) 5月10日 7月10日 9月30日 10月1日 10月14日 12月11日 昭和59年 1月23日 2月12日			
	10月9日 第34回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール 研究会 講師 白田 達郎氏 新春懇親会 賀詞交歎・福引 横浜酒販会館 省資源・省エネルギー・代替エネルギー・生活向上等のテーマ発明補助金交付5件 * 今年度から発明相談事業 * 異業種交流事業事を横浜市より委託された。 * 每月第2日曜日曜発明教室開催 第164回～175回 * 日曜発明教室において荒井文治氏物理学講座第8回～17回 「昭和58年度」 第10回日曜発明教室発表作品展示コンクール 出品点数21点 参加者14名 * 第7回褒章受章者発明講演会 講師 ㈱精研舍社長 小野 宗巳氏 横浜市中小企業指導センター 総会 横浜酒販会館 講演講師 小坂井美智子氏 懇親会 日曜発明教室を韓国より金相好氏視察に来所 研究会 プラキャスト実演 ㈱ニッシン 横浜市中小企業指導センター 第16回横浜市小中学生創意くふう展後援会長賞贈呈 横浜松坂屋パーキング 川崎発明促進会創立10周年パーティー 川崎ニューハトヤ 第35回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール 研究会 講師 三橋良夫 横浜市中小企業指導センター 新春懇親会 賀詞交歎・福引 横浜酒販会館 テーマ発明の補助金交付6件 横浜市中小企業指導センター			

昭和60年	* 每月第2日曜日曜発明教室開催(第176回～187回) 物理学講座(第18回～28回) 講師 荒井 文治氏 * 発明相談受託事業 * 異業種交流事業事務受託	品展示コンクール 出品点数22点 参加者17名 * 第9回褒章受章者発明講演会 講師 勝倉精機(㈱) 社長 勝倉喜一郎氏 横浜市中小企業指導センター 実務者特許研究会 講師 三橋 良夫氏 横浜市中小企業指導センター 総会 (役員改選) 横浜市中小企業指導センター 講演 講師 田上 正氏 特許図面研究会 講師 横地 邦男氏 横浜市中小企業指導センター 日曜発明教室世話人会 網代 民宿 川忠 研究会 講師 筒井一郎氏 横浜市中小企業指導センター 第37回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール 第18回横浜市小中学生創意くふう展 後援 婦人会館 会長賞贈呈 研究会 講師 大貫和保氏 横浜市中小企業指導センター 婦人アイデア講座 講師 三橋 良夫氏 講師 三橋 良夫氏 講師 筒井 一郎氏 横浜市消費者センター * 每月第2日曜日曜発明教室開催(第200回～211回) 物理学講座(第40回～50回) 講師 荒井 文治氏 * 発明相談受託事業 * 異業種交流事業事務受託	7月13日 研究会 講師 日比野純一氏 横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 弁理士 大貫和保氏 横浜市中小企業指導センター 研究会(明細書のか書き方) 講師 比企 英雄氏 横浜市中小企業指導センター 第19回横浜市小中学生創意くふう展 後援 会長賞贈呈 横浜こども科学館 第38回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール 講師 比企 英雄氏 横浜市中小企業指導センター 「発明入門」100冊 横浜市小中学生創意くふう 展出品校に贈呈 研究会(図面の書き方) 講師 岸村富之助氏 横浜市中小企業指導センター 婦人アイデア講座 講師 日比野純一氏 講師 日本チャコペーパー(㈱) 社長 松井 淑氏 (㈱鶴田商店) 社長 鶴田清子氏 講師 (㈲)三橋事務器 社長 三橋良夫氏 横浜市消費者センター 講師 岸村富之助氏 横浜市中小企業指導センター 新春懇親会 賀詞交歓・福引 朝日新聞日曜発明教室記事 掲載 * ラジオ放送 文化放送 神奈川情報 * 日本放送 ハロー神奈川 研究会 講師 一之瀬喜一氏 横浜市中小企業指導センター NHK FM横浜 放送 神奈川くらしの話題 * 每月第2日曜日曜発明教室開催(第212回～223回) 物理学講座(第51回～61回) 講師 荒井 文治氏 * 発明相談受託事業 * 異業種交流事業事務受託	* 第11回褒章受章者発明講演会 講師 木下理化工業(㈱) 社長 木下 義夫氏 研究会 講師 荒井文治氏 横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 大貫和保氏 横浜市中小企業指導センター 総会 横浜市中小企業指導センター VTR・懇親会 研究会 講師 松永宣行氏 横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏 横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 筒井一郎氏 横浜市中小企業指導センター 第39回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール 第20回横浜市小中学生創意くふう 展後援 会長賞贈呈 横浜こども科学館 研究会 講師 日比野純一氏 横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏 横浜市中小企業指導センター 新春懇談会 賀詞交歓・福引 横浜市中小企業指導センター 藤村勇治理事逝去 発明試作研究室は閉鎖 研究会 講師 大貫和保氏 横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏 横浜市中小企業指導センター 婦人アイデア講座 講師 笹沼喜美賀氏 講師 筒井 一郎氏 講師 三橋 良夫氏 横浜市消費者センター * 每月第2日曜日曜発明教室開催(第224回～235回) * 発明相談受託事業 * 異業種交流事業事務受託
	「昭和60年度」 4月14日 第11回日曜発明教室発表作 12			
	4月13日 「昭和61年度」 第13回日曜発明教室発表作品展示コンクール 出品点数20点 参加者17名 * 第10回褒章受章者発明講演会 講師 富士写真工機 参事 鈴木 正根氏 横浜市中小企業指導センター 新製品開発研究会 講師 牧野 六彦氏 寿 宴 5月11日 研究会 講師 三橋良夫氏 横浜市中小企業指導センター 発明試作研究室 開設 藤村 勇治 理事宅			
	4月15日			
	5月11日			
	6月 1日			
	4月12日			
	4月10日			
	4月 8日			
	5月13日			

平成元年	5月 8日	研究会 講師 梅野 昌氏 横浜市中小企業指導センター	平成 2年	4月 1日	「平成元年度」 事務局を横浜市中小企業総連合会へ移管	平成 3年	* 每月第2日曜日日曜発明教室開催（第248回～259回） 受託契約は横浜市中小企業総連合会となる。 * 発明相談業務実施 * 異業種交流研究会業務実施	10月17日	第23回横浜市小中学生創意くふう展 後援 横浜こども科学館 会長賞贈呈 山梨県発明研究会視察 ・交流	
	6月12日	研究会 講師 筒井 一郎氏 横浜市中小企業指導センター		4月 9日	第16回日曜発明教室発表作品展示コンクール 出品点数15点 出品者13名 * 第13回褒章受章者発明講演会 講師 (株)力王 社長 岡安 徳一氏		4月 1日	「平成2年度」 事務局は横浜市工業会連合会へ移転することとなった。 * 発明相談業務は横浜市より横浜市工業会連合会が受託。 * 事務局員は横浜市工業会連合会嘱託となり、発明相談業務及び横浜発明振興会事務局を担当することとなった。 今まで担当してきた異業種交流研究会業務は横浜市中小企業指導センターで行うこととなった。	10月28日	研究会 講師 松永宣行氏 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室
	6月22日	研究会 講師 筒井 一郎氏 横浜市中小企業指導センター 総会 横浜市中小企業指導センター 発明TV・懇親会		5月14日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏		4月 8日	第17回日曜発明教室発表作品展示コンクール 出品点数20点 出品者20名 * 第14回褒章受章者発明講演会 講師 中央防雷(株) 社長 加藤義一郎氏	11月11日	第2回創立30周年記念事業 実行委員会 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室
	7月10日	研究会 講師 寺坂 博氏 横浜市中小企業指導センター		6月11日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏		5月13日	横浜市職能開発総合センター 研究会 講師 荒井文治氏	11月19日	第2回創立30周年記念事業 実行委員会 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室
	8月14日	研究会 講師 三橋 良夫氏 横浜市中小企業指導センター		7月 5日 (役員改選)	横浜市中小企業指導センター 総会 事務局移管・規約改正		6月10日	横浜市職能開発総合センター 研究会 講師 楠 豊氏	12月 9日	研究会 講師 荒井文治氏 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室
	9月11日	日曜発明教室 20周年記念行事 記念講演 弁理士 山田 康生氏 功労者表彰 記念パーティー（寿宴） 20年のあゆみ印刷（400）		7月 9日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 井藤 誠氏		6月15日	横浜市職能開発総合センター 総会 横浜市中小企業指導センター 事務局移転・役員一部変更 ティーパーティー・記念品贈呈	1月12日	創立30周年記念行事 記念講演 東芝コンサルタント 講師 山田 正吾氏 記念式典 功労者に市長より感謝状贈呈 功労者の会長表彰・感謝状記念品贈呈 全会員に記念品（会員記章）贈呈
	9月30日	第40回神奈川県発明考案展 共催 横浜産貿ホール		8月13日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏		7月 8日	研究会 講師 筒井一郎氏	2月10日	研究会 講師 荒井文治氏 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室 祝賀パーティー
	10月 9日	研究会 講師 荒井 文治氏 横浜市中小企業指導センター		9月10日	横浜市中小企業指導セ・ター 研究会 講師 (有)大野技研 社長 大野 源治氏		7月10日	横浜市職能開発総合センター 創立30周年記念事業実行委員会	3月10日	研究会 講師 三橋良夫氏 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室
	10月19日	第21回横浜市小中学生創意くふう展後援 会長賞贈呈 横浜こども科学館		10月 8日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 (有)白光化学研究所 長谷川 勝敏氏		8月12日	横浜市職能開発総合センター 研究会 講師 荒井文治氏	3月12日	アイデア講座 講師 (株)ミツハシ 社長 三橋 良夫氏
	11月13日	研究会 講師 日比野純一氏 横浜市中小企業指導センター		11月12日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 荒井文治氏		9月 9日	横浜市職能開発総合センター 研究会 講師 滝沢一男氏	3月19日	講師 (株)社会保険協力会 専務 服部 吉野氏
	1月 8日	研究会 講師 三橋 良夫氏 横浜市中小企業指導センター * 天皇陛下崩御のため新春懇親会中止		12月10日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 松永宣行氏		9月26日	第42回神奈川県発明考案展覽会 共催 川崎西武デパート	3月27日	講師 弁理士 山田康生氏 横浜市消費者センター
	2月12日	研究会 講師 荒井 文治氏 横浜市中小企業指導センター		1月14日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 発明学会理事 中野 勝征氏		9月29日	テクノウエイブ100 17Fに 事務局引っ越し	3月30日	創立30周年記念誌 「30年の歩み」発行
	3月12日	研究会 講師 三橋 良夫氏 横浜市中小企業指導センター		2月11日	横浜市技能文化会館 研究会 講師 荒井文治氏		10月 1日	同上で事務開始		
	3月24日	工場見学会 (株)サンゴ (株)カレンズ 婦人アイデア講座		3月11日	横浜市中小企業指導センター 研究会 講師 セメダイン(株) 永田 宏二氏		10月14日	研究会 講師 三橋良夫氏 テクノウエイブ100 17F 横浜市工業会連合会研修室		
	3月14日	講師 三橋 良夫氏		3月13日	横浜市中小企業指導センター アイデア講座 講師 発明学会幹事 富田 悅子氏					
	3月22日	講師 小酒井美智子氏		3月20日	横浜市中小企業指導センター 講師 日比野純一氏					
	3月28日	講師 筒井 一郎氏 横浜市消費者センター * 每月第2日曜日日曜発明教室開催（第236回～247回） * 発明相談業務受託 * 異業種交流研究会業務受託		3月27日	横浜市消費者センター 講師 大貫 和保氏					
				3月16日	工場見学会 国際ケミカル(株) 見学と実習					

横浜発明振興会平成3年度・4年度役員名簿

名 誉 会 長	高 秀 秀 信	横浜市長	
会 長	三 橋 良 夫	(株)ミツハシ 社長	391-2174
副 会 長	佐 藤 正 美	(株)サンゴ 社長	473-3535
副 会 長	筒 井 一 郎		0429-26-7391
理 事	鈴 木 巍 夫	横浜プレシジョン(株)社長	771-1401
"	富 田 仙 之 助	富田鐵工所 社長	783-6161
"	北 川 隆 三	(株)北川製作所 社長	471-5355
"	小 泉 恵 三 郎	(株)セオクレーン 社長	323-2074
"	石 原 順 次	東邦印刷(株) 社長	252-5432
"	山 田 勇		981-0335
"	桑 本 真 佐 喜		782-6927
"	寺 坂 博		383-1356
"	安 田 善 三		811-0939
"	石 渡 勝 美		361-9107
"	八 木 橋 真		0467-74-8124
"	石 黒 政 治		231-2214
"	中 井 利 利		823-4573
"	大 畠 勝 彦		0467-51-4319
"	芹 沢 良 子		0463-32-7351
"	前 田 寿	横浜市経済局産業振興部長	671-2578
"	鈴 木 幸 生	横浜市経済局産業振興部次長 産業振興課長	671-2577
"	柳 沢 剛	横浜市中小企業指導 センター所長	662-6631
専 務 理 事	小 林 肇	横浜市工業会連合会専務理事	451-2451
監 理 事	内 田 紘 司	横浜市経済局産業振興部 産業振興課 課長補佐 工業振興係長	671-2597
"	白 土 豊	シラド化学(株)社長	784-7816
"	永 井 久 男		741-6868
参 与	平 野 弓 子	横浜市経済局産業振興部 産業振興課 工業振興係	671-2569
"	山 崎 武 男	横浜市工業会連合会 事務局次長	451-2451
事 務 局 長	一 之 瀬 喜 一	横浜市神奈川区新浦島町1-1 テクノウェイブ100 17F 横浜市工業会連合会会内	451-2453

〔顧問〕

(平成3年3月現在)

氏 名	〒	住 所	電 話	備 考
荒 井 文 治 成 宮 庄 次 郎	235 223	横浜市磯子区 横浜市港北区	045- 045-	

〔特別会員〕

氏 名	〒	住 所	電 話	備 考
安 藤 正 美 滝 澄 一 男 辻 村 泰 作	252 245 222	藤沢市 横浜市戸塚区 " 港北区	0466- 045- "	

〔法人会員〕

会 社 名	代 表 者	〒	所 在 地	電 話
イ (株)飯島製作所	飯 島 春 雄	230	横浜市鶴見区下野谷町 4-135	045-521-5001
(株)石川精機製作所	石 川 猛	232	横浜市南区別所 1-5-10	" 731-0415
和泉産業(株)	斎 藤 浩 一	233	横浜市港南区上大岡東 1-9-23	" 842-1308
オ (株)岡村製作所	石 渡 正 男	220	横浜市西区北幸 2-7-18	" 319-3401
技術開発部 部長	家 村 卓 介	237	横須賀市浦郷町 5-2944-1	0468-65-8201
キ (株)北川製作所	北 川 隆 三	221	横浜市神奈川区菅田町 富士下 2737	045-471-5355
(株)グットハウス	杉 浦 宏 嗣	150	東京都渋谷区神宮前 2-30-10-305	03-3746-1531
ケ 京浜コンピューター用品(株)	小 原 正	223	横浜市港北区日吉 7-15-16	044-63-6666
サ (株)サンゴ	佐 藤 正 美	222	横浜市港北区岸根町 35-1	045-473-3535
サー ン(株)	外 山 富 美 子	231	横浜市中区緑ヶ丘 48	" 621-8821
(株)三晃製作所	山 本 光 男	252	綾瀬市早川 2647-14 早川工業団地	0467-76-1011
シ (株)シラド化学	白 土 豊	236	横浜市金沢区福浦 1-11-6	045-784-7816
神中ダイカスト工業(株)	中 里 圭 介	245	横浜市戸塚区上矢部町 2200-3	" 811-1863
セ (株)セオクレーン	小 泉 恵 三 郎	220	横浜市西区平沼 1-7-5	" 323-2074
タ 大 成(株)	相 沢 宏 司	231	横浜市中区不老町1-1-1 不老町守谷ビル	" 662-9780
(株)タマキ	玉 置 辰 郎	228	横浜市緑区川向町922-24	" 474-2254
ト 東邦印刷(株)	石 原 順 次	232	横浜市南区高根町 3-18	" 252-5432

	会社名	代表者	〒	所在地	電話
ト	株富田鐵工所	富田 仙之助	236	横浜市金沢区福浦 1-8-6	045-783-6161
	東洋メタライト工業(株)	島 津 浩	245	横浜市戸塚区東俣野町 1168	" 851-1141
ニ	日亜機械工業(株)	藤 井 義 郎	231	横浜市中区翁町 1-4-14 吉浜ビル 5F	" 641-8203
	日本自働精機(株)	田 中 政 道	245	横浜市戸塚区上矢部町 887	" 811-0341
ハ	(株)ニッシン製作所	大 胡 誠 一	232	横浜市南区井土谷下町 13	" 731-3861
	萩原硝子工業(株)	萩 原 金 八	241	横浜市旭区中希望が丘 102	" 364-1933
ミ	(株)ミツハシ	三 橋 良 夫	241	横浜市旭区東希望が丘 79	" 391-2174
メ	(有)メカニズムテクニック インダストリー	小 池 量 一	235	横浜市磯子区中原 1-3-20 第2千代田ビル 3F 307	" 774-3457
ヤ	(株)山口製作所	山 口 寅 次 郎	230	横浜市鶴見区鶴見中央 2-21-10	" 501-0341
	山下工業(株)	山 下 栄 蔵	226	横浜市緑区上山町 91	" 933-0321
ヨ	(有)横浜合金金型鋳造所	斎 藤 健 治	232	横浜市南区六ッ川 1-57	" 731-3594
	横浜滅菌工業(有)	栗 原 久 宗	235	横浜市磯子区久木町 20-3	" 751-0708
	横浜プレシジョン(株)	鈴 木 巍 夫	236	横浜市金沢区鳥浜町 12-64	" 771-1401
	(ヨ)シイケ研機器(株)	安 田 一 男	222	横浜市港北区樽町 144	" 543-5731

〔個人会員〕

	氏 名	〒	住 所	電 話
ア	岡 幸 雄	220	横浜市西区	045-
	藤 早智子	231	" 中区	"
	有 青 馬 柳 正 人	232	" 南区	"
	青 貞 三 好	222	" 港北区	"
	天 池 賢 二	222	" 港北区	"
	相 沢 範 松	246	" 磬谷区	"
	阿 阿 部 将 将	245	" 戸塚区	"
	青 山 林 一 郎	239	横須賀市	0468-
	秋 田 守	243-02	厚木市	0462-
	朝 岡 保 雄	145	東京都太田区	03-
	朝 木 保 昭	281	千葉市	0472-
	赤 石 宏 宏	251	藤沢市	0466-
	荒 井 松 雄	228	相模原市	0427-
	朝 新 井 松 治 吉	249	逗子市	0468-
イ	石 井 リエ子	230	横浜市鶴見区	045-
	岩 本 昭 二	221	" 神奈川区	"

	氏 名	〒	住 所	電 話
イ	石 黒 政 治	220	横浜市西区	045-
	飯 沼 武 彦	232	" 南区	"
	岡 勝 美 夫	240	" 保土ヶ谷区	"
	石 渡 上 美 夫	241	" 旭区	"
	井 藤 宗 幸	223	" 港北区	045-
	伊 今 春 也	247	" 砧区	045-
	石 昌 夫	240	" 保土ヶ谷区	"
	岩 春 夫	246	" 磬谷区	044-
	石 嘉 彦	211	川崎市幸区	0466-
	飯 嶋 俊 雄	251	藤沢市	"
	井 昭 昭	243-04	海老名市	0462-
	伊 藤 上 美 夫	279	千葉県浦安市	0473-
	井 一 泰 德	299-41	千葉県茂原市	0475-
	伊 原 真 雄	280	千葉市	0472-
	石 川 義 雄	144	東京都大田区	03-
		194	町田市	0427-
ウ	卯 城 鉄 藏	221	横浜市神奈川区	045-
	臼 井 威 光	232	" 南区	"
	植 梅 陽 太	233	" 港南区	"
	梅 田 浩 司	235	" 磯子区	"
	鶴 犹 喜 孝	236	" 金沢区	"
	上 浦 原 嶺 海	249	逗子市	0468-
	内 内 海 喜 宏	213	川崎市宮前区	044-
	内 海 千 恵 子	252	藤沢市	0468-
	内 海 昌	259-03	湯河原町	0465-
		259-03	湯河原町	0465-
		214	川崎市多摩区	044-
オ	岡 留 登	220	横浜市西区	045-
	小 美 野 雅 代	232	" 南区	"
	大 塩 隆 代	233	" 港南区	"
	大 城 健 代	235	" 磯子区	"
	大 落 合 保 雄	227	" 緑区	"
	岡 及 川 一 雄	244	" 戸塚区	0468-
	大 堀 澄 司	240-01	三浦郡	0467-
	大 沢 育 太 郎	253	茅ヶ崎市	"
	大 大 鳩 澄	253	"	"
	大 大 鳩 勝 彦	253	"	0468-
	大 小 野 寺 峻	238	横須賀市	"
	大 小 國 清 達	237	"	"
	大 岡 本 貴 和	240-01	東京都渋谷区	03-
	大 井 川 実 保	150	"	"
	太 田 保 義	239	横須賀市	0468-
		251	藤沢市	0466-
カ	影 浦 幸 士 郎	221	横浜市神奈川区	045

	氏名	〒	住 所	電 話
カ	川河 楓治雄	220	横浜市西区	045-
	崎合 悅秀	241	〃 旭区	〃
	井山 健俊	223	〃 港北区	〃
	片管 正二	245	〃 戸塚区	〃
	門加 善聖	221	〃 神奈川区	〃
	藤井 加金	223	〃 港北区	〃
	彦義 久昌	211	川崎市中原区	044-
	屹一 伸彦	215	〃 麻生区	〃
	眞儀 久隆	239	横須賀市	0468-
	木上 川金	238	〃	〃
キ	木加 金加	252	藤沢市	0466-
	木加 金加	250-01	南足柄市	0485-
	木北 素光	237	横須賀市	0468-
ク	木北 水霧	220-04	津久井郡	0427-
	桑倉 幸由	144	東京都大田区	03-
	倉黒 一真	235	横浜市磯子区	045-
	本岩 太一	236	横浜市金沢区	〃
	木保 春太	236	〃 金沢区	〃
	木保 黑久	211	川崎市中原区	044-
	木保 黑久	214	〃 多摩区	0462-
	木保 黑久	228	座間市	0462-
	木保 黑久	228	〃	〃
	木保 黑久	228	座間市	0462-
コ	木保 黑久	253-01	高座郡	〃
	木保 黑久	277	千葉県東葛飾郡	0463-
	木保 黑久	254	平塚市	0463-
	古小 賀柴	231	横浜市中区	045-
	近小 賀柴	232	〃 南区	〃
	小林 賀柴	233	〃 港南区	〃
	小林 賀柴	240	〃 保土ヶ谷区	〃
	小林 賀柴	240	〃 保土ヶ谷区	〃
	小林 賀柴	241	〃 旭区	〃
	越小 賀柴	239	横須賀市	0468-
サ	小林 賀柴	249	逗子市	03-
	林塩 賀柴	177	東京都練馬区	03-
	小林 賀柴	104	東京都中央区	0427-
	小林 豊勤	228	相模原市	044-
	佐佐 朝義	241	〃 旭区	045-
	佐佐 朝義	241	〃 緑区	044-

	氏名	〒	住 所	電 話
サ	斎坂 朝栄	210	川崎市	044-
	佐藤 茂	253	茅ヶ崎市	0467-
	佐藤 座間	228	座間市	0462-
	佐藤 三浦	238-02	三浦市	0468-
	佐藤 相模原	229	相模原市	0427-
	佐藤 秦野	259-13	秦野市	0463-
シ	白下 白	232	横浜市南区	045-
	白下 白	235	〃 磯子区	〃
	白下 白	244	横浜市栄区	045-
	鈴木 鈴木	241	横浜市旭区	045-
ス	鈴木 鈴木	235	〃 磯子区	〃
	鈴木 鈴木	246	〃 濱谷区	〃
	鈴木 鈴木	251	藤沢市	0466-
	鈴木 鈴木	251	〃	〃
	鈴木 鈴木	254	平塚市	0463-
	鈴木 鈴木	249	逗子市	0468-
セ	芹澤 良子	254	東京都大田区	03-
	高橋 進	230	平塚市	0463-
	高橋 美雄	230	横浜市鶴見区	045-
	高橋 美雄	230	〃 鶴見区	〃
	高橋 美雄	221	〃 鶴見区	〃
	高橋 正武	220	〃 神奈川区	〃
	高橋 正武	220	〃 西区	〃
	高橋 中辺	231	〃 中区	〃
	高橋 中辺	232	〃 南区	〃
	高橋 中辺	232	〃 南区	〃
タ	高橋 清満	233	港南区	〃
	高橋 清満	240	〃 保土ヶ谷区	〃
	高橋 丑盛	222	〃 保土ヶ谷区	〃
	高橋 丑盛	226	〃 港北区	〃
	高橋 丑盛	245	〃 港北区	〃
	高橋 丑盛	246	〃 緑区	〃
	高橋 丑盛	251	〃 緑区	〃
	高橋 丑盛	251	藤沢市	0466-
	高橋 丑盛	240-01	〃	〃
	高橋 丑盛	249	葉山町	0468-
ツ	高橋 豊貴	242	逗子市	0462-
	高橋 豊貴	165	大和市	〃
	高橋 豊貴	144	〃	03-
	高橋 豊貴	221	東京都中野区	〃
	高橋 豊貴	231	〃 大田区	〃
	高橋 豊貴	231	横浜市神奈川区	045-
	高橋 豊貴	231	〃 中区	〃
	高橋 豊貴	231	〃 中区	〃
	高橋 豊貴	232	〃 南区	〃
	高橋 豊貴	235	〃 磯子区	〃
サ	鶴田 清	227	〃 磯子区	〃
	鶴田 清	359	埼玉県所沢市	0429-
	鶴田 清	359	〃	〃
	鶴田 清	359	〃	〃

	氏名	〒	住所	電話
テ	寺坂 博	221	横浜市神奈川区	045-
ト	鳥居 豊	241	横浜市旭区	045-
	田仙 司	244	〃 戸塚区	"
	鳥保 已	244	〃 戸塚区	"
	鳥羽 孝一	235	〃 磯子区	"
ナ	中島 茂美	220	横浜市西区	045-
	中森 潤	231	〃 中区	"
	中山 政昭	233	〃 港南区	"
	中澤 善弘	233	〃 港南区	"
	永井 久善	240	〃 保土ヶ谷区	"
	成井 庄次郎	222	〃 港北区	"
	中宮 晴夫	222	〃 港北区	"
	中沢 駿	222	〃 港北区	"
	中井 清	244	〃 戸塚区	"
	中野 治	245	〃 泉区	"
	鍋田 房	221	〃 神奈川区	"
	中内 和義	228	座間市	0427-
	藤繁 子	239	横須賀市	0468-
	夏長 繁	239	〃	"
	詠山 薫	252	藤沢市	0466-
	中昭	229	相模原市	0427-
ニ	西勝 六法	202	東京都保谷市	0424-
ノ	能登谷 久四郎	223	横浜市港北区	
ハ	原田 光則	221	横浜市神奈川区	045-
	林花 八郎	231	〃 中区	"
	花井 公雄	235	〃 磯子区	"
	畠山 重勝	226	〃 緑区	"
	長谷川 幸男	239	横須賀市	0468-
	林田 雄繁	251	藤沢市	0466-
	原橋 成信	243	厚木市	0462-
	本健	150	東京都渋谷区	03-
ヒ	日置 芳子	233	横浜市港南区	045-
	平石 幸夫	233	〃 港南区	"
	日高 清彦	222	〃 港北区	"
フ	袋井 幸雄	241	横浜市旭区	045-
	古川 隆昌	244	〃 戸塚区	"
	藤沢 克男	245	〃 戸塚区	"
	藤本 静国	243-04	海老名市	0462-
	上島 康広	124	東京都葛飾区	03-
	福文	158	東京都世田谷区	03-

	氏名	〒	住所	電話
ホ	星細 田正五郎	232	横浜市南区	045-
	細野 五郎	240	〃 保土ヶ谷区	"
	細野 せん	254	平塚市	0463-
マ	牧野 宣彦	220	横浜市西区	045-
	松沢 浩	221	〃 神奈川区	"
	牧町 正彦	233	〃 港南区	"
	松平 駿	236	〃 金沢区	"
	松本 達也	227	〃 緑区	"
	岩永 寿宣	247	〃 荣区	"
	松永 一	213	川崎市中原区	044-
	真松 伸	105	東京都港区	03-
ミ	三島 順一	230	横浜市鶴見区	045-
	三元 二郎	231	〃 中区	"
	三官 浩	241	〃 旭区	"
	三下 富士夫	245	〃 泉区	"
ム	須川 金徳	246	〃 澄谷区	"
	皆水 吾博	238-03	横須賀市	0468-
	水三 金也	252	藤沢市	0486-
	三官 達広	247	鎌倉市	0467-
	官川 広	247	〃	"
モ	向井 潔志	241	横浜市旭区	045-
	村諸 武一	181	東京都三鷹市	0422-
	武藤 一勝	410-23	静岡県田方郡	0557-
	伏藤	272	船橋市	0473-
モ	森栄 下治	232	横浜市南区	045-
	森森 正博	236	〃 金沢区	"
	森森 孝之	223	〃 港北区	"
	森毛 利武	247	〃 荣区	"
	森毛 英五郎	213	川崎市宮前区	044-
	森茂 雄	252	綾瀬市	0467-
ヤ	山下 静子	230	横浜市鶴見区	045-
	山下 美津子	221	〃 神奈川区	"
	山口 照雄	233	〃 港南区	"
	山内 真五郎	240	〃 保土ヶ谷区	"
	山内 嘉太郎	222	〃 港北区	"
	山内 克巳	222	〃 港北区	"
	山内 哲	227	〃 緑区	"
	山内 田島	227	〃 緑区	"
	山内 由美子	245	〃 泉区	"
	山内 田中	247	〃 荣区	"
	山内 田口	246	〃 澄谷区	"
	山内 田口	241	〃 旭区	"
	山内 卷	247	〃 荣区	"
	山内 田口	247	〃 荣区	"
	山内 卷	211	川崎市中原区	044-

	氏名	〒	住 所	電 話
ヤ	山下 錠彦	238	横須賀市	0468-
	矢萩 昭彦	238	"	"
	安元 正進	251	藤沢市	0466-
	山本 道	251	"	"
	八木橋 真道	253-01	高座郡寒川町	0467-
	山崎 隆道	154	東京都世田谷区	03-
ヨ	吉田 和正	232	横浜市南区	045-
	吉本 正博	245	" 泉区	"
	吉田 安繁	229	相模原市	
	養田 美善	257	秦野市	0463-
	吉村 善四郎	175	東京都板橋区	03-
	横田せんぞう	238-03	横須賀市	0468-
ワ	吉田 輝子	351-01	和光市	0484-
	鷺見 元吾	230	横浜市鶴見区	045-
	渡辺 洋子	220	" 西区	"
	渡辺 正信	231	" 中区	"
	渡辺 鹿藏	233	" 港南区	"
	綿渡 貫明	241	" 旭区	"
ヲ	渡辺 昌子	237	横須賀市	0468-
	渡辺 麻男	229	相模原市	0427-
オ	渡邊 寿昭	194	町田市	0427-